

(様式第 10)

神大医支第 54 号  
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名

国立大学法人神戸大学長  
藤澤 正 人

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
氏 名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

神戸大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5-2	電話(078) 382-5111
-----------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ①呼吸器内科                      ②消化器内科                      ③循環器内科                      ④腎臓内科 5神経内科                              ⑥血液内科                              7内分泌内科                      8代謝内科 ⑨感染症内科                      10アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      11リウマチ科	
診療実績 「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ (無)
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績 「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科    8産科    9婦人科    ⑩眼科    11耳鼻咽喉科 ⑫放射線科    13放射線診断科    14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    ②矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍・血液内科    2 肝臓・胆のう・膵臓外科    3 耳鼻いんこう頭頸部外科    4 美容外科 5 形成外科    6 放射線腫瘍科    7 病理診断科 8 脳神経内科    9 リハビリテーション科    10 糖尿病内分泌内科 11 食道・胃腸外科    12 乳腺・内分泌外科    13 歯科口腔外科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46床	床	床	床	888床	934床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	617人	270人	751.6人	看 護 補 助 者	36人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	18人	24人	37.0人	理 学 療 法 士	20人	臨床検査技師	79人
薬 剤 師	81人	0人	81.0人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	39人	0人	39.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	899人	10人	905.1人	臨 床 工 学 士	41人	医療社会事業従事者	14人
准 看 護 師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	3人	その他の技術員	41人
歯科衛生士	6人	0人	6.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	280人
管理栄養士	12人	0人	12.0人	診療放射線技師	56人	そ の 他 の 職 員	41人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	86人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	73人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	14人
精 神 科 専 門 医	11人	放 射 線 科 専 門 医	32人
小 児 科 専 門 医	21人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整 形 外 科 専 門 医	32人
泌 尿 器 科 専 門 医	25人	麻 酔 科 専 門 医	26人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	373人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 病院長 眞庭 謙昌 ) 任命年月日 令和 3年 2月 1日

医療安全管理委員会委員 (令和2年9月1日～)
-------------------------

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	661.4人	11.4人	672.9人
1日当たり平均外来患者数	1644.2人	85.7人	1729.9人
1日当たり平均調剤数	1227.8 剤		
必要医師数	167.0人		
必要歯科医師数	7.0人		
必要薬剤師数	23.0人		
必要(准)看護師数	408.0人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	663.6 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	36床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	35.30m <sup>2</sup>		病床数 5床(クラス100)	
			722.35m <sup>2</sup>		病床数 63床(クラス100以外)	
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	36.00m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	438.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動臨床化学分析装置			
細菌検査室	88.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置			
病理検査室	278.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) クリオスタット、ウルトラマイクローム、染色装置			
病理解剖室	67.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、オートクレープ、写真撮影機			
研究室	429.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	1,217.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員	1,082 人
図書室	2,145.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	約15万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.2%	逆紹介率	72.9%
算出根拠	A：紹介患者の数		16649人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15158人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1256人
	D：初診の患者の数		20779人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療 部長/内科主任科部 長 /医療安全管理部長/ 医療安全推進室長	○	医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・ <del>無</del>	1
丸山 英二	京都府立医科大学大 学院医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・ <del>無</del>	1
武田 高	関西住宅品質保証株 式会社監査役 (非常勤)		医療を受ける者その 他の医療従事者以外の者	有・ <del>無</del>	2
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法	
ホームページ	



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	1人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	0人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺がん(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	0人
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) <b>【外科的治療を実施する施設】</b>	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 副腎摘出術は、クッシング症候群や原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎腫瘍など幅広い疾患に対する標準治療として確立されている。1992年に本邦にて世界で初めて腹腔鏡下副腎摘出術が実施されて以降、出血量の低下、入院期間の短縮、美容上の改善がもたらされた。一方で、一般的に腹腔鏡手術では、3D立体視が出来ず、助手によるカメラワークや術者の器用さが手術の課題とされていた。近年では、これらの課題を解決するため、手術支援ロボットを用いた副腎摘出術が欧米諸国を中心に行われるようになってきている。 従来の腹腔鏡下副腎摘出術と比較し、da Vinci サージカルシステムを用いることで、3D拡大視野や手ぶれ防止機能、スケーリング機能、自由度の高い多関節鉗子を用いることができ、より安定した繊細な手術が実施可能となり、副腎腫瘍手術における術中の血圧上昇や不整脈の出現を低減できる可能性が報告されている。さらにロボット手術では従来の腹腔鏡手術と比べ、手術時間の短縮、入院日数の短縮、出血量の低下、合併症発生率の低下が報告されている。本手術に関連する合併症の報告では、術中出血(0.8%)、輸血(0.1%)、イレウス(0.2%)、気胸(0.1%)、感染(0.2%)、尿路感染症(0.7%)、術後疼痛(0.7%)、不整脈(0.7%)、心筋梗塞(0.1%)が挙げられる。			
医療技術名	hinotoriTMを用いたロボット支援根治的前立腺全摘除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 根治的前立腺全摘除術は、期待余命10年以上の限局性前立腺癌患者に対する標準治療となっている。解剖学的根治的前立腺全摘除術は1982年に報告され、これ以降、術中出血、術後尿失禁、術後男性機能障害等の有害事象はそれ以前と比較して減少し、本術式は広く行われた。さらに、腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術(Laparoscopic radical prostatectomy; LRP)は1997年に初の報告がなされ、その術式が確立、完成された。1999年には三次元視および7自由度を併せ持ち容易な鉗子操作を特徴としたdaVinci surgical systemが開発され、2001年には最初のロボット支援根治的前立腺全摘除術(Robotic radical prostatectomy; RARP)の報告がなされた。 本手技はロボット支援機器を用いて腹腔鏡下に根治的前立腺全摘除術を行う。既にhinotoriはdaVinciの同等品としての薬事承認がなされており、保険点数も付いていることから、既存のdaVinciを用いて同手術を行った場合と比較し手術成績はほぼ同様であると考えられる。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	11	56	ベーチェット病	140
2	筋萎縮性側索硬化症	9	57	特発性拡張型心筋症	98
3	脊髄性筋萎縮症	28	58	肥大型心筋症	120
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	303	61	自己免疫性溶血性貧血	13
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	9
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	74
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	20	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	175	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	46
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	139	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	39	69	後縦靱帯骨化症	7
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	85
17	多系統萎縮症	20	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	76	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	17
21	ミトコンドリア病	26	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	3	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	18	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	135
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	19
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	33
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	76
34	神経線維腫症	78	89	リンパ脈管筋腫症	10
35	天疱瘡	3	90	網膜色素変性症	2
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	101
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	15
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	94
41	巨細胞性動脈炎	17	96	クローン病	70
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	204
43	顕微鏡的多発血管炎	38	98	好酸球性消化管疾患	17
44	多発血管炎性肉芽腫症	30	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	31	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	51	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	409	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	89	105	チャージ症候群	8
51	全身性強皮症	50	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	57	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	280	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	32	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	40	161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	73
113	筋ジストロフィー	240	163	特発性後天性全身性無汗症	13
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	18	164	眼皮膚白皮症	3
115	遺伝性周期性四肢麻痺	6	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	5
117	脊髄空洞症	19	167	マルファン症候群	29
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	4
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	5
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	15	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	6
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソス症候群	0
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	4
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	4
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	48	208	修正大血管転位症	4
159	色素性乾皮症	52	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	52	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	5	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	23	266	家族性地中海熱	10
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	18	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	4
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	23
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	4
227	オスラー病	23	275	タナトフォリック骨異形成症	1
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	3
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	17	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	10	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	9	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	9	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	7
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	7	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	2	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	7	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症	2	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	7
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	1	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	7
254	ポルフィリン症	3	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	4	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	7	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	21

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	12	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	2	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	5	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	3	330	先天性気管狭窄症	4
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	18
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	5
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク妊娠管理加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク分娩管理加算
歯科診療特別対応連携加算	呼吸ケアチーム加算
特定機能病院入院基本料	後発医薬品使用体制加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算2
診療録管理体制加算1	データ提出加算
医師事務作業補助体制加算1	入退院支援加算
急性期看護補助体制加算	精神疾患診療体制加算
看護職員夜間配置加算	精神科急性期医師配置加算
看護補助加算	排尿自立支援加算
療養環境加算	地域医療体制確保加算
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料1
無菌治療室管理加算1	特定集中治療室管理料2
無菌治療室管理加算2	ハイケアユニット入院医療管理料1
緩和ケア診療加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科応急入院施設管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神病棟入院時医学管理加算	小児入院医療管理料2
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	医療機器安全管理料1
ウイルス疾患指導料	医療機器安全管理料2
外来栄養食事指導料の注2	医療機器安全管理料(歯科)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
糖尿病合併症管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導管理料イ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
がん患者指導管理料ロ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
がん患者指導管理料ハ	遺伝学的検査
がん患者指導管理料ニ	精密触覚機能検査
外来緩和ケア管理料	骨髄微小残存病変量測定
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	BRCA1/2遺伝子検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	がんゲノムプロファイリング検査
糖尿病透析予防指導管理料	先天性代謝異常症検査
小児運動器疾患指導管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
婦人科特定疾患治療管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
腎代替療法指導管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
院内トリアージ実施料	検体検査管理加算(IV)
外来放射線照射診療料	国際標準検査管理加算
ニコチン依存症管理料	遺伝カウンセリング加算
がん治療連携計画策定料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
外来排尿自立指導料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
肝炎インターフェロン治療計画料	胎児心エコー法
ハイリスク妊産婦連携指導料1	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ハイリスク妊産婦連携指導料2	ヘッドアップティルト試験
薬剤管理指導料	長期継続頭蓋内脳波検査

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
単線維筋電図	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	がん患者リハビリテーション料
全視野精密網膜電図	歯科口腔リハビリテーション料2
ロービジョン検査判断料	精神科作業療法
コンタクトレンズ検査料1	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
小児食物アレルギー負荷検査	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
内服・点滴誘発試験	医療保護入院等診療料
経気管支凍結生検法	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
画像診断管理加算3	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
ポジトロン断層撮影	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	口腔粘膜処置
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	口腔粘膜血管腫凝固術
CT撮影及びMRI撮影	レーザー機器加算
冠動脈CT撮影加算	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
血流予備量比コンピューター断層撮影	エタノールの局所注入(甲状腺)
心臓MRI撮影加算	エタノールの局所注入(副甲状腺)
乳房MRI撮影加算	人工腎臓
頭部MRI撮影加算	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
全身MRI撮影加算	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	磁気による膀胱等刺激法
外来化学療法加算1	手術用顕微鏡加算
連携充実加算	CAD/CAM冠
無菌製剤処理料	歯科技工加算1及び2
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	センチネルリンパ節加算
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
椎間板内酵素注入療法	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
腫瘍脊椎骨全摘術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	内視鏡下筋層切開術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
角膜移植術(内皮移植加算)	胸腔鏡下弁形成術
羊膜移植術	経カテーテル大動脈弁置換術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下弁置換術
網膜再建術	不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
人工中耳植込術	経皮的中隔心筋焼灼術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	補助人工心臓
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
体外衝撃波胆石破碎術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下肝切除術	胎児胸腔・羊水腔シャント術
生体部分肝移植術	胎児輸血術
同種死体肝移植術	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
体外衝撃波膵石破碎術	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	輸血管管理料 I
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	貯血式自己血輸血管管理体制加算
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	コーディネート体制充実加算
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己生体組織接着剤作成術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	同種クリオプレシピレート作製術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
同種死体腎移植術	歯周組織再生誘導手術
生体腎移植術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
膀胱水圧拡張術	顎関節人工関節全置換術(歯科)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯根端切除手術の注3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
麻酔管理料(Ⅰ)	
麻酔管理料(Ⅱ)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療(IGRT)	
体外照射呼吸性移動対策加算	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
画像誘導密封小線源治療加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
病理診断管理加算2	
デジタル病理画像による病理診断	
悪性腫瘍病理組織標本加算	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週5回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 18 例 / 剖検率 7.7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	35,880,000	補 委	国立保健医療科学院
国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究	矢野 育子	薬剤部	7,800,000	補 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症流行下における、妊婦に対する適切な支援提供体制構築のための研究	山田 秀人	産科婦人科学	14,560,000	補 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症患者増加に伴う社会情勢下において、安心安全に生体肝・腎移植を継続するための診療体制構築を目指した研究	蔵満 薫	肝胆膵外科	2,184,000	補 委	厚生労働省
指定難病と小児慢性特定疾病に関連した先天性骨系統疾患の適切な診断の実施と医療水準およびQOLの向上をめざした研究	大森 崇	臨床研究推進センター	650,000	補 委	国立保健医療科学院
化学物質の動物個体レベルの免疫毒性データ集積とそれに基づくMulti-ImmunoTox assay(MITA)による予測性試験法の確立と国際標準化	大森 崇	臨床研究推進センター	1,200,000	補 委	国立医薬品食品衛生研究所
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	400,000	補 委	国立保健医療科学院
特発性好酸球増加症候群の診療ガイドライン作成に向けた疫学研究	片山 義雄	血液内科	300,000	補 委	国立保健医療科学院
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学	500,000	補 委	国立保健医療科学院
スモンに関する調査研究	松本 理器	脳神経内科学	300,000	補 委	厚生労働省
てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	松本 理器	脳神経内科学	250,000	補 委	厚生労働省
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学	300,000	補 委	国立保健医療科学院
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓内科学	200,000	補 委	国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	野津 寛大	小児科学	400,000	補 委	国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	森貞 直哉	小児科学	400,000	補 委	国立保健医療科学院

小計 15件

難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科	300,000	補 委	国立保健医療科学院
呼吸器系先天異常疾患の診療体制構築とデータベースおよび診療ガイドラインに基づいた医療水準向上に関する研究	前田 貢作	小児外科学	300,000	補 委	国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	250,000	補 委	国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	中西 裕子	眼科学	250,000	補 委	国立保健医療科学院
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	溝渕 智司	麻酔科学	500,000	補 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚異常の機序と疫学、予後の解明に資する研究	井之口 豪	耳鼻咽喉・頭頸部外科額	500,000	補 委	厚生労働省
循環器病に関する適切な情報提供・相談支援のための方策と体制等の効果的な展開に向けた研究	平田 健一	循環器内科学	200,000	補 委	厚生労働省
小児難治性頻回再発型・ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験	飯島 一誠	小児科学	28,478,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	12,090,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レポーターHBVを駆使したHBV複製解析および創薬研究	勝二 郁夫	感染制御学	95,750,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗悪性腫瘍薬の臨床評価ガイドラインに関する研究	南 博信	腫瘍・血液内科学	5,663,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
不育症、産科異常に関わるネオ・セル抗体の研究開発	山田 秀人	産科婦人科学	15,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
吸収性スプレーを用いた体内空間可変技術の定位放射線治療への展開	佐々木 良平	放射線腫瘍科	25,700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Alport症候群に対するエクソソームキッピング療法の開発	野津 寛大	小児科学	156,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
視神経脊髄炎の個別化医療を目指した免疫寛容システムの解明	千原 典夫	脳神経内科	10,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 15件

色素性乾皮症に対する新規治療法の開発	錦織 千佳子	皮膚科学	65,856,700	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
単一細胞解析によるヘルペスウイルス持続感染の分子基盤の解明	有井 潤	臨床ウイルス学	2,080,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
潰瘍性大腸炎の特異的自己抗原の同定による新規体外診断薬の開発	児玉 裕三	消化器内科学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究とその応用のための基盤の開発	勝二 郁夫	感染制御学	3,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	飯島 一誠	小児科学	7,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	飯島 一誠	小児科学	1,040,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学	3,640,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
診療連携・国際連携をも視野にいった、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	西 慎一	腎臓・免疫内科学	195,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミスフォールド蛋白質・HLAクラスII分子複合体を標的にした自己免疫疾患の新たな診断法・治療法の開発	山田 秀人	産科婦人科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
日本のトキソプラズマ症の感染実態把握とその制御に向けた協創的研究開発	山田 秀人	産科婦人科学	1,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究	山田 秀人	産科婦人科学	962,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Borderline resectable膵癌に対する集学的治療法を用いた標準治療確立に関する研究	福本 巧	肝胆膵外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳クレアチン欠乏症の創薬・治療エビデンスの創出	吉田 優	病因病態解析学	4,550,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
持続血糖モニタリング (FGM/CGM)の血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索	廣田 勇士	糖尿病・内分泌内科学	140,062	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査に基づく予防医学に向けたエビデンスの創出研究	栗野 宏之	小児科学	130,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 15件

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリ研究	江本 憲明	循環器内科学	0	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
静脈奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性を評価する医師主導治験	野村 正	形成外科	2,136,600	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症肺高血圧症の予後と生活の質を改善するための安心安全のナノ医療製剤(希少疾病用医薬品)の実用化臨床試験	平田 健一	循環器内科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	藤岡 一路	総合周産期母子医療センター	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アレルギー性皮膚疾患の病態における発汗異常の解明と治療法の開発	福永 淳	皮膚科	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	田中 秀和	循環器内科学	500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
A3243Gミトコンドリア耐糖能異常に対するタウリン療法の実用化	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	2,145,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊髄性筋萎縮症の成人期予後把握を目的とした多施設共同コホート研究	関口 兼司	脳神経内科学	479,375	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
全国患者レジストリJapan PH Registry のデータを利活用し肺動脈性肺高血圧症に対するPrecision Medicine を実施するためのコンセプト策定研究	谷口 悠	循環器内科	650,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサバンの適応拡大のための第III相医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	520,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	1,144,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	520,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	仁田 亮	生体構造解剖学	1,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 15件

原子レベルで解明するトキソプラズマ寄生胞膜破壊と病原性因子によるその破綻	仁田 亮	生体構造解剖学	1,690,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス診断拠点構築	錦織 千佳子	皮膚科学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性B型肝炎ウイルス感染根治に向けたHBsセロコンバージョン促進方法の研究開発	上田 佳秀	消化器内科学	1,040,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験	篠山 隆司	脳神経外科	1,402,700	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
性差を加味した冠動脈疾患AI診断システムに関する研究開発	河野 淳	放射線診断学	130,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーにおけるアンチセンス核酸NS-035の第1/2相試験(ステップ2)	小林 千浩	分子脳科学	10,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児マスキング対象拡大のための疾患選定基準の確立	篠原 正和	疫学	455,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝子関連情報を基軸にした効率的免疫抑制管理による革新的長期管理ロジック開発	蔵満 薫	肝胆膵外科	39,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性を対象とした経皮膚電気刺激の有効性及び安全性に関する検証的試験	中村 誠	眼科学	401,700	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊髄性筋萎縮症における治療有効性モニタリングのためのバイオマーカーの開発	粟野 宏之	小児科学	397,441	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新型コロナウイルスワクチンの開発	森 康子	臨床ウイルス学	55,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
先天性有機酸血症の新治療薬による医師主導臨床試験準備研究	坊 亮輔	小児科	500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	金川 基	分子脳科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心筋メカノバイオロジー機構の解明による心不全治療法の開発/クライオ電子線トモグラフィー法による心筋メカノバイオロジー機構の構造基盤の解明	仁田 亮	生体構造解剖学	8,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ストレス関連疾患を担う機能的脂質の探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	古屋敷 智之	薬理学	80,131,694	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

老化機構・制御研究拠点/加齢に伴う細胞形態・運動制御の異常の分子機構	南 康博	細胞生理学	12,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化機構・制御研究拠点/神経細胞の老化機構	水谷 清人	病態シグナル学	37,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
個体・臓器老化研究拠点/膝島老化の分子機構の解明	清野 進	分子代謝医学	18,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化研究推進・支援拠点/メタボローム解析支援・技術開発(フラックス解析)	清野 進	分子代謝医学	4,547,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化研究推進・支援拠点/老化研究推進支援拠点の形成と運営	高井 義美	病態シグナル学	15,704,145	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
色素性乾皮症治療薬の開発	錦織 千佳子	皮膚科学	22,726,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明/神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明	南 康博	細胞生理学	11,700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト腸内細菌Bacteroides2菌種の抗炎症作用機序の解明と慢性炎症性疾患治療への応用	山下 智也	循環器内科	22,750,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業/ラミニン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発	小林 千浩	分子脳科学	975,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
リボソームタンパク質を標的とした新規p53活性化薬剤の探索	前濱 朝彦	分子細胞生物学	14,677,850	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
接着の偏在によるモザイク形成メカニズム	富樫 英	分子細胞生物学	49,335,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
腸-脳機能コネクティクスによる腸内感覚の機能解明と操作	榎本 秀樹	神経分化・再生	1,950,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
自家末梢血CD34陽性細胞移植による骨・血管再生療法に関する医師主導治験	黒田 良祐	整形外科学	38,470,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癌抑制遺伝子を標的とする癌治療法の開発	鈴木 聡	分子細胞生物学	24,894,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ネクチン関連分子と増殖因子受容体/インテグリンの相互作用を標的としたがん治療法	高井 義美	病態シグナル学	20,874,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 15件

食細胞-がん細胞相互作用を制御する新たながん免疫療法の開発	的崎 尚	シグナル統合学	17,952,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
マージナルドナー腎移植の安全性に関する新規エビデンス創出研究	西 慎一	腎臓内科学	8,281,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
パーキンソン病に対する真の意味のオーダーメイド治療を目指した研究	小林 千浩	分子脳科学	10,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新型コロナウイルスの信頼性の高い迅速診断システムの開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科	5,226,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療機器開発における“日本型エコシステム”推進を目指した拠点整備事業	永井 洋士	臨床研究推進センター	18,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人生の最終段階における医療体制整備事業一式	木澤 義之	緩和支援治療科	47,300,000	補 委	厚生労働省
7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン	南 博信	腫瘍・血液内科学	9,770,000	補 委	文部科学省
説明できるAIの基盤技術開発／モジュール型モデルによる深層学習のホワイトボックス化	村上 卓道	放射線診断学	8,954,000	補 委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
がん超早期・早期病変に対する細胞生物学的治療コンセプトの創出	南 康博	細胞生理学	4,000,100	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	児玉 裕三	消化器内科学	4,000,100	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
オミックス解析基盤の構築・多階層統合解析プラットフォーム・データベースの構築と運用	篠原 正和	疫学	3,000,400	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ヘルニア・変性椎間板組織再生を促す新規コラーゲンゲル充填剤	黒田 良祐	整形外科学	2,938,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学	80,860,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
フィリピン研究拠点における感染症国際共同研究	森 康子	臨床ウイルス学	63,310,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂肪酸代謝を介した小胞体の形態形成機構	内田 安則	膜動態学分野	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

小計 15件

がん細胞の生存・維持の分子機構の解明	的崎 尚	シグナル統合学分野	12,870,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
発達過程におけるPSD構成因子の変化とシナプス構築の関係	貝塚 剛志	生理学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
内臓の非対称とその配置の非対称	本多 久夫	細胞生理学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
活性型Rasタンパク質のGTPを標的とした赤外レーザーによる抗腫瘍療法の開発	松本 耕祐	口腔外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん免疫研究モデルとして免疫ヒト化MSI-H大腸がん異種移植マウスモデルの開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨格筋アドレナリン抵抗性が代謝制御に及ぼす影響とその発症メカニズムの解析	野村 和弘	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
公的資金が投入されている医療の公共性と公共財としての在り方に関する研究	小林 大介	医療システム学分野	6,370,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌に対する化学放射線療法における嚥下機能や開口に関する研究	高橋 美貴	医療技術部	350,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症性筋疾患の新規エクソソームバイオマーカー測定法の確立と臨床的有用性の検証	生戸 健一	医療技術部	470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規HDL機能評価法の日常診療における有用性の検討	小笠原 綾子	医療技術部	470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
質量分析装置を用いたカルパペネマーゼの簡易・迅速検出法の確立	西田 全子	医療技術部	480,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
転移性骨腫瘍の骨リモデリングに対する炭酸ガス療法の効果について	原 仁美	リハビリテーション部	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
終末期がん患者の呼吸困難による苦痛緩和薬物療法の開発に関する研究	山口 崇	緩和支援治療科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膜変形タンパク質のプロテオスタシスを基軸とする小胞体の恒常性維持機構の解明	山本 泰憲	膜動態学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
非侵襲的言語マッピング法の開発: 刺激介入から脳情報解読へのパラダイムシフト	松本 理器	脳神経内科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

PICT1を起点とした核小体ストレス経路の解明と癌制御	前濱 朝彦	分子細胞生物学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
MIFから考える統合失調症の分子病態と抗精神病薬の新たな作用機序	岡崎 賢志	精神医学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アジア文化に即したアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の開発と有効性の検証	木澤 義之	緩和支援診療科	4,290,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
行動経済学を取り入れたアドバンスケアプランニングの効果に関する検証試験	木澤 義之	緩和支援診療科	5,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌へ介入するうつ病の予防法開発のための研究	蓬萊 政	精神医学分野	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
CD28分子集簇能による胃癌抗PD-1抗体療法におけるresponder群の同定	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
接着力の差を並び替えに変換して自律的に組織をつくるメカニズム	富樫 英	分子細胞生物学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
統合失調症患者のiPS細胞を利用した前頭前皮質の発生、シナプス形成の生物モデル化	江口 典臣	精神医学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
FMISO-PETを用いた炭酸ガス療法による腫瘍の低酸素状態改善のイメージング	丸山 晃司	放射線診断学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
4D-CT画像加算処理技術を用いた造影剤80%減量CTAの臨床応用	堀之内 宏樹	放射線診断学分野	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ユビキチン化反応による小胞体の柔軟な形状変化	梶保 博昭	膜動態学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アストロサイトによるRor2を介した脳内炎症制御機構が組織修復に果たす役割の解明	遠藤 光晴	細胞生理学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
臨床データベースと患者検体を活用したサイトカインストーム型急性脳症の病態解明	西山 将広	小児科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アストロサイトと神経シナプスとの構造的・機能的相互作用機構	宮田 宗明	病態シグナル学部門	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
パーキンソン病の病態におけるS1P受容体シグナルおよびエキソソーム放出の関与	岡田 太郎	生化学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

光による皮膚概リズム形成の意義を探る	寺師 浩人	形成外科学分野	4,550,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
CSPaリン酸化による神経終末保護作用に着目した新規パーキンソン病治療法の開発	白藤 俊彦	生理学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
特定波長光によるメラノーマ増殖・転移抑制メカニズムの解明ーGq変異を巡ってー	橋川 和信	形成外科学分野	6,110,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
チック症の発現機序を紐解くー光イメージング法を用いたアプローチー	橘 吉寿	システム生理学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨髄造血大環境としての骨組織の解析	片山 義雄	血液内科学分野	4,810,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
異なる研究レベルの融合による、関節リウマチの個別化医療の開発	大西 輝	膠原病リウマチ内科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺癌オルガノイドの樹立効率向上と臨床での実用化	眞庭 謙昌	呼吸器外科学分野	6,110,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪性軟部腫瘍は正確に病理診断されているか？ 実践的診断アルゴリズムの確立	廣瀬 隆則	地域連携病理学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
食道扁平上皮癌の発癌初期段階におけるマクロファージ・線維芽細胞の協調作用の解析	狛 雄一郎	病理学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ウイルスに対する免疫応答を規定する非感染状態の免疫システムに関する研究	亀山 武志	病態シグナル学部門	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
経皮的肝灌流門注化学療法 of 臨床応用にむけた薬物血中動態に関する研究	水本 拓也	肝胆膵外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵がんにおける代謝バイオマーカーの確立	小林 隆	消化器内科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
赤血球膜結合IgG抗体の検出による大腸癌スクリーニング法の確立	川本 晋一郎	腫瘍・血液内科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
鍼刺激で発見したAig11遺伝子の生物学的機能と鍼治療効果との関連の研究	高岡 裕	医療情報部	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん患者の突出痛治療における予防的オピオイドレスキュー効果の検討	西島 薫	緩和支援治療科	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

術後維持輸液の選択が患者予後に与える影響を検討する無作為化比較試験	古島 夏奈	麻酔科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死における術中感染骨検知液の新規開発	有本 智美	口腔外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病モデルマウスにおける術後認知機能障害と予防策	西村 杏香	麻酔科学分野	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性高血糖の糖尿病モデルにおける至適な術前血糖管理の開発	藤本 大地	麻酔科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
NF- $\kappa$ B経路の抑制に着眼した敗血症性筋萎縮の新規薬物治療	大野 雄康	災害・救急医学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
明細胞肉腫に対するLAT-1阻害剤を用いた新たな抗癌剤治療法の開発	森下 雅之	整形外科科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Kinematical alignment TKAのバイオメカニクスの検討	高山 孝治	整形外科科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
AIによる肺癌超低線量CT検診及び肺結節鑑別診断用コンピューター支援装置開発	竹中 大祐	放射線診断学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
分子マーカーを用いた軟部肉腫の新規リスク分類の創出	小松 正人	病理診断学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
エクソソームの細胞特異性を利用した新規放射線増感剤の開発	犬伏 祥子	乳腺内分泌外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌のRa-223療法におけるNaF PET/MRの有用性検討	野上 宗伸	放射線診断学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
無機ナノ粒子を用いた放射線治療増感効果の最適化の検討	西村 英輝	放射線腫瘍学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
タイチン分解酵素を阻害するDuchenne型筋ジストロフィーの新しい治療標的	栗野 宏之	小児科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
集中治療後症候群(PICS)の病態解明と脳内炎症制御に注目した治療戦略	井上 茂亮	災害・救急医学分野	7,020,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
生殖不全とhuman herpesvirus 6 & 7との関係解明	長又 哲史	産科婦人科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

持続性心房細動における心房線維化ならびに局所的炎症部位への非薬物的治療の確立	木内 邦彦	循環器内科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脈絡膜血管形態及び脈絡膜血管新生におけるYAP/TAZの役割の解明	松宮 亘	眼科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
網羅的手法を用いたHDL機能を規定する因子の基礎臨床融合研究	石田 達郎	循環器内科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規HDL機能評価指標の実用性の検証と規定因子の同定	杜 隆嗣	立証検査医学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
超微小粒子PM0.1の呼吸器疾患へ与える影響の解析	西村 善博	呼吸器内科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
常染色体優性間質性腎疾患(ADTKD)のゲノム診療体制の基盤構築	森貞 直哉	小児科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
中心性漿液性脈絡網膜症における漿液性網膜剥離の病態解明	三木 明子	眼科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レーベル遺伝性視神経症の発症予防・治療を目指した病態研究	上田 香織	眼科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
TFL発現異常による免疫制御の破綻が引き起こすがん病態悪化機構の解明	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
代謝をターゲットとした自己免疫疾患の新規治療法の開発	三枝 淳	膠原病リウマチ内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
関節リウマチにおけるエクソソームの病態への関与の解明	中町 祐司	地域医療活性化センター事務係	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪細胞のインスリン-mTOR経路による代謝調節機構とNASHの病態解明	細岡 哲也	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自己免疫性下垂体疾患の発症メカニズムの解明と臨床応用	井口 元三	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する機能的電気刺激療法の開発	坪井 康典	リハビリテーション部	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症低減化を目指した新たな生体適合素材の開発	小松 昇平	肝胆膵外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

SACLA及びNMRを駆使した抗がん剤設計のためのRasタンパク質の動的構造解析	榎野 義輝	シグナル伝達医学研究展開センター	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脳内微小環境破綻を担うマイクログリア活性化制御機構とその細胞生物学的意義の解明	谷口 将之	薬理学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
イブプロフェン含嗽剤の作用時間の持続と使用時の刺激感の減少を目指した製剤化研究	五百藏 武士	薬剤部	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
梗塞後心室リモデリングに対するバイオメカニクスによる新たな治療戦略の開発	鷹羽 浄顕	災害・救急医学分野	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺大細胞神経内分泌癌の抗癌剤感受性における神経内分泌因子の役割	田中 雄悟	呼吸器外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤における共刺激分子遺伝子導入および放射線治療の併用効果	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	5,070,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新生児期疼痛による行動異常に対する神経活動マッピングとネットワーク機能変化の解明	野村 有紀	麻酔科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
最大気流速に向かって進む画期的な気管挿管デバイスの開発と実用化に向けた研究	溝渕 知司	麻酔科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
唾液腺発生時における細胞間接着分子の解析	北山 美登里	口腔外科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
網羅的炎症解析による難治性けいれん重積状態の病態解明と新しい診断・治療法の開発	永瀬 裕朗	小児科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腫瘍関連マクロファージ免疫チェックポイント阻害による新規膠芽腫治療法の基礎研究	西原 賢在	脳神経外科学分野	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脳虚血再灌流障害におけるATMキナーゼ経路の役割解明と新たな脳梗塞治療への応用	細田 弘吉	脳神経外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
大腸癌における接着因子NCAMと腫瘍関連マクロファージとの相互作用解析機構の解明	高瀬 信尚	食道胃腸外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
KLF15を介した筋萎縮の分子機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	3,250,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いた原発性中枢性リンパ腫における新規バイオマーカーの探索	水川 克	脳神経外科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

ヒト脂肪由来再生幹細胞による難治性骨折治療に関する基礎研究	松本 知之	整形外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
HCV感染によるシャペロン介在性オートファジーを介した蛋白質分解と分子病態	松井 千絵子	感染制御学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
循環器疾患における腸内細菌叢の役割の解明と新規治療標的の探索	山下 智也	循環器内科学分野	4,550,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌叢由来LPSと循環器疾患における慢性炎症との関連解明研究	吉田 尚史	循環器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌由来のメッセージ物質の機能解明と循環器疾患との関連解明研究	平田 健一	循環器内科学分野	6,630,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
iPS細胞作製技術を用いた人工骨肉腫幹細胞の樹立と機能解明	河本 旭哉	整形外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞接着分子ネクチンによるがん細胞の増殖と運動の停止と再開のスイッチ機構	慶田城 迅	病態シグナル学部門	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
バーチャルリアリティを用いたマウス社会性行動の感覚モダリティ解析	中井 信裕	生理学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
EPAを用いた変形性関節症治療への挑戦	林 申也	整形外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
iPS細胞由来腎臓オルガノイドを用いた小児ネフローゼ症候群の発症機序の解明	飯島 一誠	小児科学分野	7,540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮頸癌の小線源治療における人工知能を利用した自動輪郭入力の研究	西川 遼	放射線腫瘍学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
超低侵襲を可能にする新規の体液診断マーカーを併用した放射線治療の開発	川口 弘毅	放射線腫瘍学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
患者個別がん幹細胞を得る免疫ヒト化・異種移植マウスモデルを用いた放射線応答の研究	モハメド モハメド	放射線腫瘍学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
マクロファージを対象とした新規薬剤輸送システムの確立と新規治療戦略の開発	妹尾 悟史	放射線腫瘍学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
急性腸管虚血症に対するインドシアニングリーン動注による腸管血流評価の有効性の検討	佐々木 康二	放射線診断学分野	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

自閉症スペクトラム障害の発症と新生児黄疸の関連性についての研究	前山 花織	小児科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
深層学習を用いた胸部単純X線写真の自動診断と医師への読影支援	西尾 瑞穂	放射線診断学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ナノ粒子デリバリーによる放射線増感機能を付加する治療用視認性マーカーの新規開発	王 天縁	放射線腫瘍学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
還元型CoQ10を用いた中枢神経細胞損傷の防護を目指した新規放射線療法の開発	清水 康之	放射線腫瘍学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
重症虚血肢に対する低酸素環境の改善を目的とした新規炭酸ガス療法の開発	元津 倫幸	放射線診断学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
マウスモデルを用いた早産児敗血症に対する臍帯由来間葉系幹細胞治療の開発	西田 浩輔	小児科学分野	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
極低出生体重児の3歳時における発達特性と周産期の呼吸・栄養管理との関連	万代 ツルエ	小児科学分野	380,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Pierson症候群における重症化機序の解明と新規治療開発	榊原 菜々	小児科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
スプライシング修正による日本人ガラクトシアリドーシスの新規治療法の開発	坊 亮輔	小児科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
内耳有毛細胞ときこえを守る支持細胞の働き	勝沼 紗矢香	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌における骨髄由来抑制細胞とアデノシン代謝	井之口 豪	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群疾患感受性遺伝子及び薬剤感受性遺伝子同定のための国際共同研究	飯島 一誠	小児科学分野	5,330,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
解糖阻害薬の早産児敗血症保護効果の解明	生田 寿彦	小児科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
OCTを用いた内リンパ水腫軽減効果のin vivoイメージングに関する研究	柿木 章伸	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
神経芽腫がん幹細胞マーカーALDH1A2によるがん微小環境の制御の解明	植村 優	小児科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

糖尿病網膜神経変性におけるneurovascular unitの役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト胎盤の網羅的DNAメチル化解析による胎児発育不全の責任遺伝子の同定	芦名 満理子	小児科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
神経芽腫のがん微小環境制御におけるEvi5の役割に関する研究	高藤 哲	小児科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いたヒトBarrett食道の病態モデルの作成	小寺澤 康文	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心臓への粒子線照射後の組織学的、電気生理学的変化の解析と不整脈治療への展開	高見 充	循環器内科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Duchenne型筋ジストロフィーの心機能障害におけるアクチニン3多型の病態解明	永井 正志	小児科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小さな赤ちゃんに対する優しく安全な手術を考えよう！(小児外科の手術手技体験)	大片 祐一	小児外科学分野	480,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アクアポリノパチーとしての網膜・視神経変性の病態解明	中村 誠	眼科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性血栓塞栓性肺高血圧症の発症・進展の分子メカニズムの解明	谷口 悠	循環器内科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乳児血管腫におけるstem cellの関与 ～増殖・分化制御機構の解明～	櫻井 沙由理	形成外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
治療抵抗性の改善と副作用の軽減を目指した革新的ながん治療法の開発応用	長谷川 巧実	口腔外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
指定難病「IgG4関連疾患」の自己抗原同定による病態解明と新しい診療体系の確立	児玉 裕三	消化器内科学分野	4,160,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心臓性突然死の病態における炎症分子ペントラクシン3の関与と法医実務への応用	高橋 玄倫	法医学分野	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトヘルペスウイルス6の宿主受容体認識を司るウイルス糖蛋白質複合体の構造解析	西村 光広	臨床ウイルス学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内アミノ酸調整による腫瘍発生の回避とその機序の解明	星 奈美子	消化器内科学分野	7,540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

X染色体連鎖型アルポート症候群女性患者の重症化メカニズム解明に関する研究	山村 智彦	小児科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アトピー性皮膚炎の治療過程における好塩基球の動態の解明	鷲尾 健	皮膚科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
分子標的治療薬による間質性肺疾患の新規予防戦略の構築	山本 和宏	薬剤部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
妊婦における適正使用を目指した新規抗てんかん薬の数理学的モデル解析	矢野 育子	薬剤部	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫担当細胞の細胞代謝を利用した自己免疫疾患の新規治療	岡野 隆一	検査部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵β細胞におけるCK2βの役割	高井 智子	シグナル統合学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胃癌腫瘍免疫微小環境における3次リンパ構造の成熟機構の解明と抗体取得	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	8,060,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
早産児腹膜炎への外科侵襲に伴う免疫応答の解明と新たな周術期免疫賦活療法の開発	大片 祐一	小児外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
NKT細胞活性化ベクターを用いた大網内への抗腫瘍免疫誘導による腹膜播種の新規治療	有本 聡	食道胃腸外科学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レジデントメモリー誘導機構を用いた直腸癌新規術前療法の開発	福岡 英志	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
CTと術中動画をを用いた膵上縁リンパ節郭清シミュレーションモデルの開発	山崎 悠太	食道胃腸外科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
転写メディエーター複合体の転写制御機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新たな亜型分類に基づく肺高悪性度神経内分泌癌の新規予後マーカー探索と個別化治療確立	神保 直江	病理診断学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
虚血に対する非脱分極性筋弛緩薬ロクロニウム筋細胞保護効果に関する研究	田口 真也	麻酔科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
意識を可視化する～周術期安静時pharmacological fMRIによる研究	若林 潤二	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

交感神経に随伴するシュワン前駆細胞の他種細胞分化の検証とその分子基盤	伊藤 圭祐	神経分化・再生分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
地域創成まちづくり事業を活用した医療の枠組みを超えた地域医療教育の検証	岡山 雅信	地域医療教育学部門	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
高齢者敗血症における長期免疫評価とリンパ球活性化因子を用いた新規治療戦略	齋藤 雅史	災害・救急医学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症とミトコンドリア機能障害のクロストークに着目した急性脳症の包括的病態解明	富岡 和美	小児科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ホスホイノシタイド代謝異常を起点とするマリネスコシェーグレン症候群発症機構の解明	伊集院 壮	生化学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アドバンスケアプランニングのきっかけとして予後予測が役立つか？ランダム化比較試験	木澤 義之	緩和支援治療科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞間シグナルを介したがん細胞の新たな免疫監視回避機構の解析	村田 陽二	シグナル統合学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵島の三次元構造形成・維持機構におけるEpac2/Rap1シグナルの役割の解明	高橋 晴美	分子代謝医学部門	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ケトン食による腫瘍内代謝リモデリングを考慮した膠芽腫の新規統合療法の開発	田中 宏知	脳神経外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪性肝炎に対するBacteroides菌種の有効性の検討	矢野 嘉彦	感染病理学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
生体成分類似材料コーティングによる安全性に優れた長期留置型尿管ステントの開発	梁 英敏	腎泌尿器科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いた無症候性頸動脈狭窄症の症候化予測因子の網羅的探索	山下 俊輔	脳神経外科学分野	3,250,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
大腸がんにおけるヒト内在性レトロウイルスの発現解析と機能解明	青井 三千代(小柳)	再生医療臨床応用実 現化人材育成セン ター	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膝前十字靭帯損傷に合併した半月板損傷に対する手術治療の回旋不安定性改善効果の検討	星野 祐一	整形外科学分野	6,114,659	補委	独立行政法人 日本学術振興会
成長因子GDF6の椎間板における役割の解明と椎間板変性に対する治療アプローチ	宮崎 真吾	整形外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

メニエール病における抗利尿ホルモンによるアクアポリン2の細胞内局在に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
創傷治癒能力とミトコンドリア機能に着目した新規創傷治療法の開発	齊藤 泉	口腔外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
鍼治療に於ける手技(鍼刺激方法)の意義:治療効果との関連の科学的解明	大田 美香	医療情報部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎への進展に関わる腸管粘膜表層細菌の解析	酒井 新	消化器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線照射後の腫瘍由来エクソソームに発現するPDL1を指標にした新規免疫治療戦略	原田 文	放射線腫瘍学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
M1マクロファージに着目した口腔扁平上皮癌の新規予防法・病理診断法の開発	重岡 学	病理学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
過酸化チタンナノ粒子を用いたTheranostic粒子線治療の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Ewing肉腫におけるdormant cellの同定とその特性の探索	竹森 俊幸	整形外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヨードマップを用いた膵癌の線維性間質定量による悪性度および治療抵抗性の予測法確立	祖父江 慶太郎	放射線診断学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血流・組織解析CTによる肝細胞癌分子標的療法の治療効果および肝不全予測法の確立	村上 卓道	放射線診断学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性骨髄炎における新規治療法の開発	岩田 英治	口腔外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内環境の修飾による大腸癌予防法の開発	大井 充	消化器内科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
デュシェンヌ型筋ジストロフィーの心電図異常が示す病態的意義の解明	山本 哲志	検査部	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵癌における腸内細菌叢を介した腫瘍免疫機構の解明	増田 充弘	消化器内科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
変形性膝関節症患者に対する脂肪組織由来再生細胞移植の有効性・機序解明に関する研究	黒田 良祐	整形外科学分野	4,680,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

合成糖摂取により誘導される動脈硬化での脂質代謝の役割の解明	森 健太	総合内科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自己免疫性膵炎の病態形成における腸内細菌の役割	井上 潤	消化器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
多面的な作用をもつHDLと細胞とのインタラクションの解明	入野 康宏	立証検査医学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん治療関連心機能障害の早期診断・予防法の構築	田中 秀和	循環器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規生体イメージングモデルを用いたJCADによる血栓形成制御機構の解明	川合 宏哉	循環器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
SIPシグナルを介したエキソソーム放出の分子機構の解析	中村 俊一	生化学分野	5,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
JCAD/KIAA1462のCOPDにおける役割の解明と治療法の開発	山本 正嗣	呼吸器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞の形態・極性制御を司る微小管ネットワーク形成の構造基盤	仁田 亮	生体構造解剖学分野	5,590,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自閉症の生物学的統合研究	内匠 透	生理学分野	28,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝性腎疾患におけるスプライシング異常発症機序の解明および新規治療法の開発	野津 寛大	小児科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
マウス覚醒下fMRIを用いたうつ脆弱性・抵抗性と脳機能との相関解析	玉田 紘太	生理学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
紫外線による多段階皮膚発癌における網羅的遺伝子解析	国定 充	皮膚科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
精神神経疾患を理解するシナプスのスクラップ&ビルド	内匠 透	生理学分野	18,980,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症・セロトニン・体内時計の生理的共役を基盤とした発達障害の病態解明	今村 聖路	生理学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
間葉系幹細胞による癌悪性化に関するシグナルネットワーク機構の解明	瀧口 豪介	食道胃腸外科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

がん骨転移を引き起こす microRNAの探索とliquid biopsy への応用	川上 洋平	整形外科学分野	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
免疫系ヒト化マウスモデルによる マクロファージを標的とした新規 がん免疫療法の開発	飯田 理恵	シグナル統合学分野	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
AD/HDのiPS細胞を用いた中 枢神経モデルの解析	曾良 一郎	精神医学分野	5,850,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
Establishment of Global Gold Standard about radiotherapy adaptation criteria in patients with lung cancer using pulmonary quantification by Xenon CT	石原 武明	放射線診断学分野	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
慢性心不全患者における緩和ケ アのアンメットニーズの探索およ び介入方法の開発	松沼 亮	緩和と支持治療科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
ヒト脳における電気生理的コネク トームの構築と神経疾患へのグラ フ理論的アプローチ	十河 正弥	脳神経内科学分野	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
関節リウマチ特異的ノンコーディ ングRNA相互作用に関する研究	河野 誠司	医学教育学分野	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
PTENを標的とする健康長寿薬の 開発	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	3,250,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
先天的インスリン抵抗症の原因 遺伝子の探索と患者iPS細胞を用 いた病態の解析	廣田 勇士	糖尿病・内分泌・総合 内科学分野	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
ACTH産生下垂体腺腫の浸潤 性、増殖性と関連するCRNDの 機能の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌・総合 内科学分野	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
多房性脂肪細胞におけるオート ファジーがエネルギー代謝を制 御するメカニズムの解明	田守 義和	糖尿病・内分泌・総合 内科学分野	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
グルタミン酸シグナルによるイン スリン開口分泌制御機構の解明	艾尼 吾甫尔江	分子代謝医学部門	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
EOB造影MRI T1 mapを用いた線 維性間質定量画像による肺癌の 悪性度予測	山口 尊	放射線診断学分野	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
エクソソームを利用した過酸化チ タンナノ粒子による新規放射線 増感療法の基礎的検討	岩下 和真	放射線腫瘍学分野	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
臓器特異的な免疫記憶誘導に 着目した新たな癌免疫療法の試 み	山下 公大	食道胃腸外科学分野	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会

小計 15件

脊髄虚血再灌流障害を予防、回避するための脳脊髄液中のバイオマーカーの同定	山中 勝弘	心臓血管外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
運動と不動化による筋量とエネルギー代謝の制御機構の解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	6,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
癌細胞株と3次元in vitroモデルを応用した浸潤における候補遺伝子の解明	土井 健史	呼吸器外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ICU-acquired weakness予防に最適な急性血糖管理の検討	江木 盛時	麻酔科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
PET-MRIを利用した心臓サルコイドーシスの活動性定量評価	渡邊 慶明	放射線診断学分野	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症性脳症の発症メカニズム解明とIL-18をターゲットとした新規治療戦略	小谷 穰治	災害・救急医学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
くも膜下出血に伴う脳血管攣縮の脳・髄液代謝変化のオミクスによる包括的解析	魚住 洋一	脳神経外科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
mTORC1を標的とした変形性関節症治療薬の開発	松下 雄彦	整形外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法を用いた類上皮肉腫に対する新規治療方法の開発	藤本 卓也	整形外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪細胞のインスリンシグナル障害による遠隔病理作用発現機構の解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	5,720,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
疾患変異を修復された内在性幹細胞の組織再建能の検証	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
MRIを用いた深層学習による胸部領域のPET吸収補正法の開発	曾 菲比	放射線診断学分野	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
不動化による筋萎縮の制御機構の解析	平田 悠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗酸化物質を用いた肩腱板変性断裂に対する予防的治療の開発	美松 泰	整形外科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
聴神経腫瘍のゲノム解析による腫瘍発生および増大メカニズムの解明	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

血管・リンパ管新生に着眼した歯 性感染症－顎骨・骨髄炎移行メカ ニズム解明と治療法探索	明石 昌也	口腔外科学分野	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
心臓性急死における内皮関連分 子のダイナミクストロンボモジュ リンを中心として-	近藤 武史	法医学分野	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
食物アレルギーの抗原同定と診 断・治療法の開発	桂田 直子	呼吸器内科学分野	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
獣医療における過酸化チタンナ ノ粒子を用いた新規・高精度放 射線増感療法の開発	長田 雅昭	放射線腫瘍学分野	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
ユビキチンリガーゼ活性を制御 するmiRNAのパーキンソン病治 療に対する有用性検証	大村 友博	薬剤部	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
深部膿瘍に対するNon-thermal ablationを用いた新規治療の開 発	辻田 有志	放射線診断学分野	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
自己血T細胞エクソソームを用い た新規免疫放射線療法の開発	窪田 光	放射線腫瘍学分野	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
生後早期の敗血症が獲得免疫 機構の発達に及ぼす影響の解 明とその治療戦略	大山 正平	小児科学分野	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
社会ストレスによる樹状突起委縮 を担う分子機序の解明とその制 御法の確立	永井 裕崇	薬理学分野	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
ヒト運動前野の超適応メカニズム の解明:皮質脳波からの電氣的 コネクティクス研究	松本 理器	脳神経内科学分野	2,990,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
気管切開児における下気道細菌 感染症の臨床的・血液学的特徴 の解明	南川 将吾	小児科学分野	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
意味記憶ネットワークの神経基 盤:皮質脳波解読と刺激・病変研 究による包括的解明	松本 理器	脳神経内科学分野	3,510,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
プロテインキナーゼCシグナリン グによるがん細胞の細胞死回避 機構の解明	梶本 武利	生化学分野	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
免疫性神経疾患におけるT細胞 制御遺伝子プログラムを応用した 神経変性病態の解明	千原 典夫	脳神経内科学分野	6,630,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
新規アミロイドβペプチド制御因 子GAL3BPによるアルツハイマー 病治療法の開発	関 恒慶	脳神経内科学分野	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会

ヒト化マウスを用いた新規リンパ腫PDXモデルの開発	齊藤 泰之	シグナル統合学分野	3,250,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
神経救急患者の広域周波数帯域脳波を用いた治療予後の高精度新規バイオマーカーの確立	十河 正弥	脳神経内科学分野	1,478,440	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群とHLA class IIに関する病態解明研究	堀之内 智子	小児科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
HNF1Bの転写因子活性と臨床像の相関に関する研究	石河 慎也	小児科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト染色体15q11-q13自閉症領域の責任遺伝子同定と病態メカニズムの解明	玉田 紘太	生理学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
WT1遺伝子異常症に対する病態解明と新規治療法の開発	長野 智那	小児科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸上皮細胞の寿命制御に関わる分子基盤の解明	小谷 武徳	シグナル統合学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
$\alpha$ 2タニサイトの構造・機能とネクチン1の発現	清水 達太	病態シグナル学部門	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵腫瘍形成最初期におけるDNA脱メチル化制御の破綻とその分子機序の解明	藤倉 航平	病理診断学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト化マウスを用いたヒト骨髄由来細胞/食道扁平上皮癌細胞相互作用の解析	横崎 宏	病理学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アンチセンス核酸によるPHOX2B(+7Ala mutant)の発現抑制	福嶋 祥代	小児科学分野	2,730,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるアミノ酸とアミノ酸トランスポーターの役割の検討	具 潤壘	消化器内科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
C型肝炎ウイルスによる脂肪滴肥大化維持の分子機構とウイルス学的意義の解明	勝二 郁夫	感染制御学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胸腺におけるHippo経路の機能	西尾 美希	分子細胞生物学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵臓正常組織に蓄積した遺伝子変異解析による膵癌発症のメカニズムの解明	池川 卓哉	消化器内科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

次世代技術を用いた希少胆膵疾患の網羅的DNA・プロテオーム解析	全 陽	病理診断学分野	3,640,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
配列特異的翻訳抑制蛋白質によるHippo-YAP経路の制御	大谷 淳二	分子細胞生物学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
iPS細胞由来胃オルガノイドによる粘膜筋板形成及び破綻のメカニズム	上原 慶一郎	病理診断学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病性心筋症における早期診断バイオマーカーと治療法の確立	長尾 学	立証検査医学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨髄をターゲットとした新たな動脈硬化予防法の開発	江本 拓央	循環器内科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
「無細胞タンパク質合成系を用いた抗体作成」による免疫関連有害事象の病態解明	南 博信	腫瘍・血液内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
核小体オルガネラゾーンにおけるストレス制御と癌の発症進展機構	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	3,510,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自己血T細胞とpH反応溶解カプセルでナノ粒子を輸送するケミカル免疫がん治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象の病態解明とバイオマーカーの探索	飛松 和俊	消化器内科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
microRNAを用いた生物学的Adaptive radiotherapyの検討	松尾 圭朗	放射線腫瘍学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
3次元積層造形技術を用いた革新的な新規頭頸部放射線治療用固定具の研究開発	宮脇 大輔	放射線腫瘍学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
癌抑制遺伝子の個体における機能と制御	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	10,140,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
感覚組織形成に働く接着力と表面張力を制御する細胞間シグナルの解明	富樫 英	分子細胞生物学分野	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児・AYA世代の骨軟部肉腫に対する吸収性スペーサー併用陽子線治療の確立	出水 祐介	放射線腫瘍学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
金属ナノ粒子を応用した新規・免疫放射線増感療法の開発	岡本 欣晃	放射線腫瘍学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

糖尿病のインクレチン応答性インスリン分泌不全の分子機構解明とその治療戦略の確立	清野 進	分子代謝医学部門	5,460,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
超高線量率マイクロビームX線を用いた難治性腫瘍への新規がん治療法の開発	江本 裕樹	放射線腫瘍学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌の外膜小胞を利用した疾患治療法の開発研究	山下 智也	循環器内科学分野	3,900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
無機ナノ粒子表面へ抗体結合技術を用いた新規放射線増感療法の国際共同開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肝動脈塞栓術後のガン微小環境におけるマクロファージ極性制御に基づく新規治療戦略	上嶋 英介	放射線診断学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
超高線量率スリットビームと金属ナノ粒子を併用した異次元・放射線治療法の開発	棕本 成俊	放射線腫瘍学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新生児敗血症に対するTrained immunity誘導に基づく新規治療法の開発	藤岡 一路	小児科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
COPDにおけるエンドセリンの役割の解明	梅澤 佳乃子	呼吸器内科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
「脳・こころ」ストレスと動脈硬化疾患:脂質代謝物解析が解き明かすそのメカニズム	篠原 正和	疫学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん幹細胞と老化細胞を標的とした分子標的治療薬耐性の克服	立原 素子	呼吸器内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
PLC $\epsilon$ を標的とした呼吸器疾患の新たな治療法の構築	永野 達也	呼吸器内科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レニンアンギオテンシン系に着目した先天性腎尿路異常の腎障害進展機序の解明	石森 真吾	小児科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児IgA腎症における肉眼的血尿による急性腎障害、CKD進展メカニズムの解明	藤村 順也	小児科学分野	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
好塩基球をターゲットとした蕁麻疹の病態解明と創薬への応用	福永 淳	皮膚科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
2型糖尿病発症における膵 $\beta$ 細胞でのmTORC1活性調節機構の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

エピゲノム制御による小胞体ストレス応答を介する薬剤耐性獲得に着目した新規がん治療	福本 毅	皮膚科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
包括的脂質メディエーター解析による関節リウマチの新規バイオマーカーの探索	明石 健吾	膠原病リウマチ内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
褐色脂肪細胞の多房性脂肪滴蓄積形態が制御するエネルギー代謝調節機構の解明	西本 祐希	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨軟部肉腫、小児悪性腫瘍に対する新規・体内空間可変粒子線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	5,850,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
消化管を介するメホルミンの新規作用機序の解明	駒田 久子	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
鉄キレート作用を介したメホルミンによる新規耐糖能改善メカニズムの解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨格筋量制御におけるカルシウム依存性シグナルの解析	平田 悠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
SGLT2阻害薬による膵β細胞保護効果機序の解明	神野 歩	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
日本人2型糖尿病感受性遺伝子GCN2が膵β細胞機能に及ぼす影響に関する検討	木村 真希(小柳真希)	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
触覚センサーを有する手術支援ロボット用鉗子の開発	堀川 学	食道胃腸外科学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
HPA軸における循環血液中microRNAの生理的・病理的意義の解明	山本 雅昭	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
高齢者の担癌状態におけるインターロイキン15による免疫賦活機序の解明	鈴木 知志	食道胃腸外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膠芽腫に対するアミノ酸代謝阻害併用ケトン食療法の基礎的研究	篠山 隆司	脳神経外科学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アロ反応が引き起こす抗腫瘍応答増強を利用した新規癌治療の開発	渡部 晃大	食道胃腸外科学分野	2,990,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗PD-1抗体耐性機構に着目したNKT細胞活性化バクターを用いた新規腹膜播種治療	杉田 裕	食道胃腸外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

直腸癌術前化学放射線療法後の腫瘍免疫微小環境の解明	阿河 杏介	食道胃腸外科学分野	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
食道癌における腫瘍関連マクロファージによる化学療法耐性機構の解明と克服	裏川 直樹	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
悪性グリオーマのグルタミン飢餓状態による一炭素代謝経路の調整と新規治療標的の探索	田中 一寛	脳神経外科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
内分泌細胞由来大腸癌に対する新規治療法の探索	向山 順子	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心臓大血管手術患者における溶血関連臓器障害の予防手段の確立を目指して	法華 真衣	麻酔科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脊髄刺激療法が有効な患者における安静時脳機能的結合の解明	本山 泰士	麻酔科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
疼痛の慢性化に関与する視床-高次脳領域の神経回路基盤の病態解明	岡田 卓也	麻酔科学分野	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アディポネクチンによる椎間板変性・炎症に対する治療法の開発	張 鍾穎	整形外科科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
徐放化抗がん剤と非金属脊椎インプラントを併用した新しい脊椎転移治療に関する研究	角谷 賢一郎	整形外科科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
尿路手術に応用しうる新規可溶性合金の開発	日向 信之	腎泌尿器科学分野	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児がんに対する麻酔薬の選択が予後および免疫機能へ与える影響	大井 まゆ	麻酔科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来テストステロン産生Leydig細胞の作製と臨床応用に関する実験	藤澤 正人	腎泌尿器科学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性高血糖マウスのインスリン抵抗性と好中球機能からみた新しい術前血糖管理法の開発	上野 喬平	麻酔科学分野	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫抑制ネオセルフ化ペプチドワクチンによる膠原病、産科異常治療法の確立	笹川 勇樹	産科婦人科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
救急外来からの連続的な脳波データを活用した非けいれん性発作の神経傷害機構の解明	山口 宏	小児科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

急性脳主幹動脈閉塞血管内再開通療法における術中評価法と最適な治療手技戦略の開発	今堀 太一郎	脳神経外科学分野	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
p21をターゲットとした関節リウマチにおける関節破壊の制御機能の解析	福田 康治	整形外科科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
前十字靭帯損傷膝における回旋不安定性の新たな定量的評価システムの開発と応用	長井 寛斗	整形外科科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いた成熟した膀胱尿路上皮細胞への分化誘導と細胞シートの作製	鈴木 光太郎	腎泌尿器科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
2光子顕微鏡による胎仔マイクログリアが仔の成長発達に及ぼす影響の解明	谷村 憲司	産科婦人科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた子宮内膜症進展・癌化の早期診断ツールの開発	高橋 良輔	産科婦人科学分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部食道重複癌における共通遺伝子変異の網羅的解析	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
妊娠初期のプロテインS、プロテインC抗凝固因子の変動と産科異常との関連解析	出口 雅士	産科婦人科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
$\alpha\beta$ 2GPI/MHC class IIによる妊娠合併症の動物モデル作成と治療法開発	山田 秀人	産科婦人科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血中マイクロRNA解析による唾液腺癌バイオマーカーの開発	手島 直則	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
低細胞毒性の界面活性剤が有する細胞増生促進作用の研究	石田 泰久	形成外科学分野	2,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
miR-622内包人工エクソソームによる卵巣癌の浸潤・転移と微小環境制御	寺井 義人	産科婦人科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
母児間鉄代謝に関わる新規因子の解明	森岡 裕香	附属動物実験施設	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
鼻副鼻腔神経内分泌悪性腫瘍の遺伝子変化と免疫チェックポイント分子発現に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科学分野	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病性足潰瘍の骨髄炎の発症には終末糖化産物による微小血管障害が関与するか	藤井 美樹	形成外科学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

口腔粘膜における光受容機序を探る～光受容タンパク質の作用～	楠元 順哉	口腔外科学分野	2,990,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血球細胞による意志力の低下とその機構の解明	北岡 志保	薬理学分野	3,900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌における金属ナノ粒子と分子標的薬併用治療の有効性に関する研究	寛 康正	口腔外科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ストレスによる認知情動変容を担う多階層プロセスと精神疾患への関与の構成的理解	古屋敷 智之	薬理学分野	33,670,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死におけるパズツール処理を用いた新規骨再建法の開発	有本 智美	口腔外科学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脈管奇形の悪化メカニズムを探る～血管平滑筋を巡る分子制御機構の解明～	野村 正	形成外科学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新人看護師の成長に影響する「社会人基礎力」の検討と指導者に求められる能力の再構築	ウィリアムソン 彰子	看護部	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヘルペスウイルスの細胞指向性を規定する分子機構の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	5,720,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
生死を分ける脳炎発火点の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	4,160,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
超音波トラッキングによるサルコペニアの横隔膜評価法開発:運動ニューロン減少の関与	関口 兼司	脳神経内科学分野	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ユビキチンテクノロジーの創出によるウイルス出芽の解剖	有井 潤	臨床ウイルス学分野	3,900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児気道狭窄性疾患の評価のためのOCT(光干渉断層撮影)機器の開発	尾藤 祐子	小児外科学分野	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん悪液質に着目した口腔がん新規治療法の検討	武田 大介	口腔外科学分野	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心臓手術前のHMB投与による、術後身体機能改善ならびに予後改善効果の検証	小川 真人	リハビリテーション部	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工知能を応用したわが国における個別化乳癌検診の実践	村上 卓道	放射線診断学分野	0	補委	独立行政法人 日本学術振興会

骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学分野	0	補委	独立行政法人 日本学術振興会
シミュレーション解析と数理モデルによる肺がん分子標的薬の薬効予測の研究	高岡 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
行動の構造:比較認知神経科学によるアプローチ	橘 吉寿	システム生理学分野	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
スクラップ&ビルドによる脳機能の動的制御	内匠 透	生理学分野	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性顎骨壊死の病態と発症リスク因子の解明に関する多施設共同研究	長谷川 巧実	口腔外科学分野	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レーザーESD標準化に向けた消化器癌の超早期検出とその場適応診断法の確立	森田 圭紀	国際がん医療・研究推進学分野	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アジアに展開する感染症研究拠点を活用した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する緊急研究	森 康子	臨床ウイルス学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
多様性肺結節データベースの構築と自己学習型画像診断支援システム開発の基礎研究	西尾 瑞穂	放射線診断学分野	1,105,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
患者・家族と創る日本版アドバンス・ケア・プランニング～人生最終段階の幸せを支える	木澤 義之	緩和と支持治療科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
糖アルコールリン酸のバイオロジ	小林 千浩	分子脳科学分野	4,810,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
苦痛なく心残りのないお別れができるためのグッドデス・ケアパスウェイの検証	木澤 義之	緩和と支持治療科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヨード密度CT画像を用いた肝線維化の評価法の開発	村上 卓道	放射線診断学分野	50,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヨード密度CT画像を用いた肝線維化の評価法の開発	祖父江 慶太郎	放射線診断学分野	50,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌に対するサイトカインシグナル阻害分子遺伝子導入による集学的治療の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線脳壊死関連マクロファージに発現する免疫制御分子B7ファミリーの意義の解明	山下 公大	食道胃腸外科学分野	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

M2マクロファージ上に発現するB7分子を標的とした転移性脳腫瘍の発症制御	山下 公大	食道胃腸外科学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アミノ酸イメージングと癌シグナル伝達因子による脳腫瘍患者の予後予測マーカーの解明	村上 卓道	放射線診断学分野	13,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞接着に関する数理的研究の深化と新展開	富樫 英	分子細胞生物学分野	195,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
赤外線マルチカメラによる胸腔鏡下手術支援システムの開発	眞庭 謙昌	呼吸器外科学分野	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
赤外線マルチカメラによる胸腔鏡下手術支援システムの開発	田中 雄悟	呼吸器外科学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
逐次近似法再構成冠動脈CTが臨床転帰に与える影響に関する多施設無作為化比較試験	河野 淳	放射線診断学分野	78,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
子ども-環境相互作用に注目した社会的養護の基礎的・実践的研究	田中 究	精神医学分野	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
マルチスケール精神病態の構成的理解(総括班)	古屋敷 智之	薬理学分野	6,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ストレス喘息の病態発症におけるオピオイド受容体遺伝子多型-内分泌-免疫応答の解析	曾良 一郎	精神医学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ビッグデータを用いた非がん終末期の医療と療養場所に関する疫学研究	坂下 明大	緩和支援診療科	455,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
福山型筋ジス及びび類縁疾患のアンチセンス核酸、糖鎖補充、AAV治療開発と病態解明	小林 千浩	分子脳科学分野	3,900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線シミュレータの革新	山下 智弘	放射線腫瘍学分野	195,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤進展度分類と進展メカニズムの分子細胞生物学的研究	長谷川 巧実	口腔外科学分野	13,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーの中核症状の克服を目指した評価系構築と治療法の確立	小林 千浩	分子脳科学分野	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
輸入・新興感染症から医療従事者を守れ！臨床現場ガイドライン策定のための防護具研究	荒川 創一	腎泌尿器科学分野	78,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 15件

母親の録音言語は早産児の言語発達を改善するか？	藤岡 一路	小児科学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
個別化治療を見据えた唾液腺癌の分子病理学的解析:大規模多施設共同研究	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
食品基礎科学を応用した新規咀嚼昨日評価法の開発とオーラルフレイルへの波及効果	明石 昌也	口腔外科学分野	39,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
イメージングバイオマーカーとしての実効横緩和率の有用性および標準化に関する検討	堀 雅敏	放射線診断学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
MTCLタンパク質群による微小管集合構造制御機構の解明	仁田 亮	生体構造解剖学分野	455,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がんゲノム医療: Precision Nursing Care Program開発	須藤 保	肝胆膵外科学分野	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性疾患をもつ子どもを含む家族の役割移行を支える多職種協働プログラムの開発	栗野 宏之	小児科学分野	39,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
AI支援型がん患者の意思決定構造解析を基盤とした情報提供システムの開発	木澤 義之	緩和と支持治療科	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺がん患者における術中麻酔薬による免疫抑制メカニズムの機序解明と予後への影響	井上 茂亮	災害・救急医学分野	208,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
グリアとニューロンによるヒト脳の包括的てんかんネットワークの統合的解析	松本 理器	脳神経内科学分野	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
終末期の鎮静の生命倫理的・医学的位置づけに関するアジア・ヨーロッパ国際共同研究	木澤 義之	緩和と支持治療科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規ラットモデルを用いた糖尿病遺伝素因と病態発症・進展機構の解明	波多野 直哉	シグナル統合学分野	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞組織形成を見据えた界面ネットワークのダイナミクス解析	富樫 英	分子細胞生物学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
NCDデータを利用した急性大動脈解離外科治療の全国規模実態調査研究	大北 裕	心臓血管外科学分野	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
看護管理者のキーコンピテンシー獲得に向けた教育プログラムの開発と有用性の検証	ウィリアムソン 彰子	看護部	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

がん転移部位に由来する腫瘍マーカーの同定と腫瘍概念の再構築を目指した融合遺伝子の探索	河本 旭哉	整形外科学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
専門家レベルの緩和ケアAIプログラムの開発と検証～終末期の苦痛を一掃する	木澤 義之	緩和と支持治療科	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
専門家レベルの緩和ケアAIプログラムの開発と検証～終末期の苦痛を一掃する	山口 崇	緩和と支持治療科	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
照射放射線質の違いによるがん転移能への影響に関するデータベース作成	沖本 智昭	放射線腫瘍学分野	156,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
照射放射線質の違いによるがん転移能への影響に関するデータベース作成	出水 祐介	放射線腫瘍学分野	156,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
早期関節リウマチ患者の主観的幸福度の推移-幸福度を臨床で活用する-	三枝 淳	膠原病リウマチ内科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	馬屋原 博	放射線腫瘍学分野	52,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自殺リスクの遺伝因子に関する国際共同研究	大塚 郁夫	精神医学分野	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
グリア・神経ネットワークの統合モデリング	宮田 宗明	病態シグナル学部門	6,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 9件

計 504件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類  
2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kurimoto T, Ueda K, Mori S, et al.	眼科	A Single-Arm, Prospective, Exploratory Study to Preliminarily Test Effectiveness and Safety of Skin Electrical Stimulation for Leber Hereditary Optic Neuropathy	J Clin Med. 2020 May 6;9(5):1359. doi: 10.3390/jcm9051359.	Original Article
2	Imai H, Tetsumoto A, Yamada H, Hayashida M, Otsuka K, Miki A, Nakamura M.	眼科	Intraoperative three-dimensional fluorescein angiography-guided pars plana vitrectomy for branch retinal vein occlusion	Retin Cases Brief Rep. 2020 Nov 25. doi: 10.1097/ICB.0000000000001091. (オンライン)	Original Article
3	Junya Kusumoto, Atsushi Uda, Takeshi Kimura, et al.	歯科口腔外科	Effect of educational intervention on the appropriate use of oral antimicrobials in oral and maxillofacial surgery: a retrospective secondary data analysis	BMC Oral Health. 2021 Jan;7;21(1):20.	Original Article
4	Nishi S, Goto S, Mieno M, et al.	腎臓内科	The Modified Chronic Kidney Disease Epidemiology Collaboration Equation for the Estimated Glomerular Filtration Rate is Better Associated with Comorbidities than Other Equations in Living Kidney Donors in Japan	Intern Med. 2021 Mar 15;60(17):2757-2764	Original Article
5	Furushima N, Egi M, Obata N, et al.	麻酔科	Mean amplitude of glycemic excursions in septic patients and its association with outcomes: A prospective observational study using continuous glucose monitoring.	J Crit Care. 2021 Jun;63:218-222.	Original Article
6	Motoyama Y, Sato H, Nomura Y, et al.	麻酔科	Percutaneous retrocruar versus ultrasound-guided coeliac plexus neurolysis for refractory pancreatic cancer pain.	BMJ Support Palliat Care. 2020 Jun 11;bmjspcare-2020-002246.	Case report

計 6 件

7	Fujimoto D, Egi M, Makino S, et al.	麻醉科	The association of intraoperative end-tidal carbon dioxide with the risk of postoperative nausea and vomiting.	J Anesth. 2020 Apr;34(2):195-201.	Original Article
8	Furukawa Tatsuya	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Left non-recurrent inferior laryngeal nerve in a patient with right-sided aortic arch and aberrant left subclavian artery	Auris Nasus Larynx. 2021 Apr;48(2):317-321.	case report
9	Kazuhiro Minami, Naoe Jimbo, Yugo Tanaka, et al.	呼吸器外科	Fibrous bands associated with higher Masaoka stage and poor recurrence-free survival in patients with thymoma	Thoracic cancer.2021.2;12(3):349-356	Original Article
10	Yutaka Takaoka, Mika Ohta, Satoshi Tateishi, et al.	医療情報部	In Silico Drug Repurposing by Structural Alteration after Induced Fit: Discovery of a Candidate Agent for Recovery of Nucleotide Excision Repair in Xeroderma Pigmentosum Group D Mutant (R683W)	Biomedicines.2021.3;9(3):249	Original Article
11	Yamashita K, Ogihara T, Hayashi M, et al.	薬剤部	Association between dexamethasone treatment and alterations in serum concentrations of trace metals	Pharmazie.2020.5;75(5):218-222	Original Article
12	Takeshi Ioroi, Naomi Kiyota, Yoshinori Imamura, et al.	薬剤部	Ibuprofen gargle for chemo- or Chemoradiotherapy-induced Oral Mucositis: a feasibility study	Journal of pharmaceutical health care and sciences.2020 Jun; 6(12)	Original Article
13	Takahiro Ito, Kazuhiro Yamamoto, Satoshi Ogawa, et al.	薬剤部	Model-based assessment of pharmacokinetic changes of sunitinib, tacrolimus, and everolimus in a patient with metastatic renal cell carcinoma after renal transplantation	Drug Metabolism and Pharmacokinetics.2020.10;35(5):405-409	Original Article

14	Kayoko Morio, Kazuhiro Yamamoto, Ikuko Yano	薬剤部	Relationship Between Tramadol Response and Cancer Cachexia: A Retrospective Cohort Study	The American journal of hospice & palliative care.2021.3;38(3):276-282	Original Article
15	Atsushi Uda, Katsumi Shigemura, Koichi Kitagawa, et al.	薬剤部	Risk Factors for the Acquisition of Enterococcus faecium Infection and Mortality in Patients with Enterococcal Bacteremia: A 5-Year Retrospective Analysis in a Tertiary Care University Hospital	Antibiotics (Basel, Switzerland).2021.1;10(1)	Original Article
16	Kaori Kuramitsu, Takumi Fukumoto, Hiroto Egawa, et al.	肝胆膵外科	A Multicenter Japanese Survey Assessing the Long-term Outcomes of Liver Replantation Using Living Donor Grafts	Transplantation. 2020.4;104(4):754-561	Original Article
17	Shohei Komatsu, Yoshihiko Yano, Keitaro Sofue, et al.	肝胆膵外科	Assessment of lenvatinib treatment for unresectable hepatocellular carcinoma with liver cirrhosis	HPB : the official journal of the International Hepato Pancreato Biliary Association.2010.10;22(10):145 0-1456	Original Article
18	Shohei Komatsu, Masahiro Kido, Motofumi Tanaka, et al.	肝胆膵外科	Clinical Significance of Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Associated with Extrahepatic Metastases	Digestive surgery.2020 Sep;37(5):411-419	Original Article
19	Hirochika Toyama, Ippei Matsumoto, Takuya Mizumoto, et al.	肝胆膵外科	Influence of the Retrocolic Versus Antecolic Route for Alimentary Tract Reconstruction on Delayed Gastric Emptying After Pancreatoduodenectomy: A Multicenter, Noninferiority Randomized Controlled Trial	Annals of surgery.2020.7(オン ライン)	Original Article
20	Sachiyo Shirakawa, Hirochika Toyama, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	Response to: "timing of administration of indocyanine green for fluorescence-guided surgery in pancreatic cancer: response to Shirakawa et al."	BMC surgery.2020.7;20(1):153- 153	Letter

21	Shohei Komatsu, Yusuke Demizu, Nor Shazrina Sulaiman, et al.	肝胆膵外科	Space-making particle therapy for sarcomas derived from the abdominopelvic region	Radiotherapy and oncology : journal of the European Society for Therapeutic Radiology and Oncology.2020.5;146:194-199	Original Article
22	Taichi Tamura, Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, et al.	肝胆膵外科	Successful resection of cellular angiofibroma in the retroperitoneum by using laparoscopic approach	Asian journal of endoscopic surgery.2020.7;13(3):431-434	Case report
23	Hisanori Imai, Akira Tetsumoto, Hiroko Yamada, et al.	眼科	Impact of different manufacturers and gauge sizes on the performance of backflush needle	Scientific reports.2020.12;10(1):21452- 21452	Original Article
24	Hisanori Imai, Akira Tetsumoto, Saki Inoue, et al.	眼科	Intraoperative Three- Dimensional Fluorescein Angiography-Guided Pars Plana Vitrectomy for the Treatment of Proliferative Diabetic Retinopathy: The Maximized Utility of the Digital Assisted Vitrectomy	Retina (Philadelphia, Pa.).2020.4(オンライン)	Original Article
25	Hisanori Imai, Akira Tetsumoto, Hiroko Yamada, et al.	眼科	The long-term effect of cystotomy with or without the fibrinogen clot removal for the refractory cystoid macular edema secondary to diabetic retinopathy	Retina (Philadelphia, Pa.).2021.4;41(4):844-851	Original Article
26	Motoko Tachihara, Ryota Dokuni, Keiko Okuno, et al.	呼吸器内科	Phase II study of adjuvant chemotherapy with pemetrexed and cisplatin with a short hydration method for completely resected nonsquamous non-small cell lung cancer	Thoracic cancer.2020.9;11(9):2536-2541	Original Article
27	Shun Tatehara, Go Inokuchi, Hiroko Takeda, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Frontal sinusitis associated with orbital decompression for Graves' orbitopathy	Auris, nasus, larynx.2020.12;47(6):1079- 1082	Case report

28	Akinobu Kakigi, Naoya Egami, Natsumi Uehara, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Live imaging and functional changes of the inner ear in an animal model of Meniere's disease	Scientific reports.2020.7;10(1):12271-12271	Original Article
29	Natsumi Uehara, Naoki Otsuki, Mie Kubo, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Oncolytic effect of Midkine promoter-based conditionally replicating adenoviruses expressing EGFR siRNA in head and neck squamous cancer cell line T891	Cancer reports (Hoboken, N.J.).2020.6;3(3):e1231	Original Article
30	Takeshi Fujita, Akinobu Kakigi, Natsumi Uehara, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Reconstruction of the external auditory canal using full-thickness rolled-up skin graft after lateral temporal bone resection for T1 and T2 external auditory canal cancer	Auris, nasus, larynx.2021.1(オンライン)	Original Article
31	Tatsuya Furukawa, Kotaro Tamagawa, Kenta Fukui, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Two cases of glottic closure for refractory aspiration pneumonia after vertical partial laryngectomy	Auris, nasus, larynx.2020.8(オンライン)	Case report
32	Akihito Kitao, Shinichiro Kawamoto, Keiji Kurata, et al.	腫瘍・血液内科	Band 3 ectopic expression in colorectal cancer induces an increase in erythrocyte membrane-bound IgG and may cause immune-related anemia	International journal of hematology.2020.5;111(5):657-666	Original Article
33	C. Suzuki, N. Kiyota, Y. Imamura, et al.	腫瘍・血液内科	Effect of tumor burden and growth rate on treatment outcomes of nivolumab in head and neck cancer	International Journal of Clinical Oncology.2020.7;25(7):1270-1277	Original Article
34	Satoshi Sai, Masanori Toyoda, Kazutoshi Tobimatsu, et al.	腫瘍・血液内科	Phase 1 study of Gemcitabine/Nab-paclitaxel/S-1 in patients with unresectable pancreatic cancer (GeNeS1S trial)	Cancer chemotherapy and pharmacology.2021.1;87(1):65-71	Clinical Trial

35	Hironobu Minami, Toshihiko Doi, Masanori Toyoda, et al.	腫瘍・血液内科	Phase I study of the antiprogrammed cell death-1 Ab spartalizumab (PDR001) in Japanese patients with advanced malignancies	Cancer science.2021.2;112(2):725-733	Clinical Trial
36	Yoichiro Sugizaki, Hiromasa Otake, Hiroyuki Kawamori, et al.	循環器内科	Adding Alirocumab to Rosuvastatin Helps Reduce the Vulnerability of Thin-Cap Fibroatheroma: An ALTAIR Trial Report	JACC. Cardiovascular imaging.2020.6;13(6):1452-1454	Original Article
37	Toshihiko Oshita, Ryuji Toh, Yuichiro Nagano, et al.	循環器内科	Association of cholesterol uptake capacity, a novel indicator for HDL functionality, and coronary plaque properties: An optical coherence tomography-based observational study	Clinica chimica acta; international journal of clinical chemistry.2020.4;530:136-144	Original Article
38	Yoichiro Sugizaki, Hiromasa Otake, Koji Kuroda, et al.	循環器内科	Concomitant Use of Rosuvastatin and Eicosapentaenoic Acid Significantly Prevents Native Coronary Atherosclerotic Progression in Patients With In-Stent Neoatherosclerosis	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society.2020.9;84(10):1826-1836	Original Article
39	Hiroyuki Kawamori, Akihide Konishi, Toshiro Shinke, et al.	循環器内科	Efficacy of optical frequency domain imaging in detecting peripheral artery disease: the result of a multi-center, open-label, single-arm study	Heart and Vessels.2021.1;36:818-826	Original Article
40	Yu Takahashi, Takayoshi Toba, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Feasibility of morphological assessment of coronary artery calcification with electrocardiography-gated non-contrast computed tomography: a comparative study with optical coherence tomography	The International Journal of Cardiovascular Imaging.2020.11;37:1445-1453	Original Article
41	Hiroyuki Yamamoto, Toshiro Shinke, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Impact of daily glucose fluctuations on cardiovascular outcomes after percutaneous coronary intervention for patients with stable coronary artery disease undergoing lipid-lowering therapy	Journal of Diabetes Investigation.2020.12(オンライン)	Original Article

42	Takayoshi Toba, Toshiro Shinke, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Impact of the Antithrombotic Effects of Prasugrel on Mid-Term Vascular Healing in Acute Coronary Syndrome vs. Stable Coronary Artery Disease	Circulation Journal.2021.1(オ ンライン)	Original Article
43	Naofumi Yoshida, Seiichi Kitahama, Tomoya Yamashita, et al.	循環器内科	Metabolic alterations in plasma after laparoscopic sleeve gastrectomy	Journal of diabetes investigation.2020.6(オンライ ン)	Original Article
44	Kenichi Yanaka, Akihide Konishi, Toshiro Shinke, et al.	循環器内科	Open-Label Multicenter Registry on the Outcomes of In-Stent Restenosis Treated by Balloon Angioplasty with Optical Frequency Domain Imaging in the Superficial Femoral Artery (ISLAND- SFA Study)	Annals of Vascular Diseases.2020.9;13(3):291-299	Original Article
45	Yoshiro Tsukiyama, Akihide Konishi, Toshiro Shinke, et al.	循環器内科	Open-label multicenter registry on the outcomes of peripheral arterial disease treated by balloon angioplasty with optical frequency domain imaging in superficial femoral artery and popliteal artery (OCEAN-SFA study)	Cardiovascular Intervention and Therapeutics.2020.6;36:321- 329	Original Article
46	Hiromasa Otake, Takashi Kubo, Toshiro Shinke, et al.	循環器内科	Optical frequency domain imaging vs. INtravascular ultrasound in percutaneous coronary InterventiON in patients with Acute Coronary Syndrome: Study protocol for a randomized controlled trial	Journal of cardiology.2020.9;76(3):317- 321	Original Article
47	Kodai Komaki, Naofumi Yoshida, Seimi Satomi- Kobayashi, et al.	循環器内科	Preoperative frailty affects postoperative complications, exercise capacity, and home discharge rates after surgical and transcatheter aortic valve replacement	Heart and vessels.2021.2;36:1234-1245	Original Article
48	Akihide Konishi, Masamichi Iwasaki, Takashi Omori, et al.	循環器内科	The effect of multiple- inflation balloon aortic valvuloplasty	Heart and vessels.2020.11;35(11):1557- 1562	Original Article

49	Hiroyuki Yamamoto, Akihide Konishi, Toshiro Shinke, et al.	循環器内科	The impact of vildagliptin on the daily glucose profile and coronary plaque stability in impaired glucose tolerance patients with coronary artery disease: VOGUE-A multicenter randomized controlled trial	BMC cardiovascular disorders.2021.2;21(1):92-92	Original Article
50	Yu Taniguchi, Yoichiro Matsuoka, Hiroyuki Onishi, et al.	循環器内科	The role of balloon pulmonary angioplasty and pulmonary endarterectomy: Is chronic thromboembolic pulmonary hypertension still a life-threatening disease?	International Journal of Cardiology.2021.3;326:170-177	Original Article
51	Makiko Suzuki, Kensuke Matsumoto, Makiko Suto, et al.	循環器内科	Transcatheter Atrial Septal Defect Closure in a 'Nonagenarian' with Intractable Heart Failure	Internal medicine (Tokyo, Japan).2020.4;59(8):1059-1036	Case report
52	Takayoshi Toba, Hiromasa Otake, Gilwoo Choi, et al.	循環器内科	Wall Shear Stress and Plaque Vulnerability: Computational Fluid Dynamics Analysis Derived From cCTA and OCT	JACC. Cardiovascular imaging.2021.1;14(1):315-317	Original Article
53	Tomohiko Yamamura, Tomoko Horinouchi, Tomomi Adachi, et al.	小児科	Development of an exon skipping therapy for X-linked Alport syndrome with truncating variants in COL4A5	Nature communications.2020.6;11(1):2777-2777	Original Article
54	Shinya Ishiko, Tomoko Horinouchi, Rika Fujimaru, et al.	小児科	Glomerular galactose-deficient IgA1 expression analysis in pediatric patients with glomerular diseases	Scientific reports.2020.8;10(1):14026-14026	Original Article
55	Masahiro Nishiyama, Yusuke Ishida, Hiroshi Yamaguchi, et al.	小児科	Prediction of AESD and neurological sequelae in febrile status epilepticus	Brain & development.2021.2(オンライン)	Original Article

56	Satoshi Urakami, Hirofumi Abe, Shinwa Tanaka, et al.	消化器内科	Development of a preoperative risk-scoring system for predicting poor responders to peroral endoscopic myotomy	Gastrointestinal endoscopy.2020.6(オンライン)	Original Article
57	Arata Sakai, Hideyuki Shiomi, Takao Iemoto, et al.	消化器内科	Endoscopic Self-Expandable Metal Stent Placement for Malignant Afferent Loop Obstruction After Pancreaticoduodenectomy : A Case Series and Review	Clinical Endoscopy.2020.7;53(4):491-496	Case report
58	Hideyuki Shiomi, Atsuhiko Masuda, Yuzo Kodama	消化器内科	Endoscopic shielding technique using polyglycolic acid sheets with fibrin glue for perforation following endoscopic ampullectomy	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society.2020.9;32(6):992-992	Case report
59	Masato Kinoshita, Shinwa Tanaka, Fumiaki Kawara, et al.	消化器内科	Peroral endoscopic myotomy alone is effective for esophageal motility disorders and esophageal epiphrenic diverticulum: a retrospective single-center study	Surgical Endoscopy.2020.12;34(12):5447-5454	Original Article
60	Yasutaka Yamada, Atsuhiko Masuda, Keitaro Sofue, et al.	消化器内科	Prediction of pancreatic atrophy after steroid therapy using equilibrium-phase contrast computed tomography imaging in autoimmune pancreatitis	JGH open : an open access journal of gastroenterology and hepatology.2020.8;4(4):667-683	Original Article
61	Yu Sato, Takashi Kobayashi, Shin Nishiumi, et al.	消化器内科	Prospective Study Using Plasma Apolipoprotein A2-Isoforms to Screen for High-Risk Status of Pancreatic Cancer	Cancers.2020.9;12(9):2625-2625	Original Article
62	Kohei Yamakawa, Atsuhiko Masuda, Yuzo Kodama	消化器内科	Troubleshooting for severe acute cholangitis caused by proximally migrated metal stent into the intrahepatic bile duct: Stent shortening via a balloon catheter	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society.2020.7;32(5):e112-e113	Case report

63	Yuta Yamazaki, Shingo Kanaji, Takeru Matsuda, et al.	食道胃腸外科	Automated Surgical Instrument Detection from Laparoscopic Gastrectomy Video Images Using an Open Source Convolutional Neural Network Platform	Journal of the American College of Surgeons.2020.5;230(5):725-732	Others
64	Masataka Fujikawa, Yu-Ichiro Koma, Masayoshi Hosono, et al.	食道胃腸外科	CCL1 Derived from Tumor-Associated Macrophages Contributes to Esophageal Squamous Cell Carcinoma Progression via CCR8-mediated Akt/PRAS40/mTOR Pathway	The American journal of pathology.2021.1(オンライン)	Original Article
65	Takeru Matsuda, Hideki Endo, Masafumi Inomata, et al.	食道胃腸外科	Clinical outcome of laparoscopic vs open right hemicolectomy for colon cancer: A propensity score matching analysis of the Japanese National Clinical Database	Annals of gastroenterological surgery.2020.11;4(6):693-700	Original Article
66	Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Clinical outcomes of transanal total mesorectal excision using a lateral-first approach for low rectal cancer: a propensity score matching analysis	Surgical endoscopy.2021.2;35(2):971-978	Original Article
67	Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Current status and trend of laparoscopic right hemicolectomy for colon cancer	Annals of gastroenterological surgery2020.9;4(5):521-527	Original Article
68	Yoshihiro Kakeji, Hiroyuki Yamamoto, Hideki Ueno, et al.	食道胃腸外科	Development of gastroenterological surgery over the last decade in Japan: analysis of the National Clinical Database	Surgery today.2021.2;51(2):187-193	Review
69	Hiroshi Hasegawa, Takeru Matsuda, Akira Arimoto, et al.	食道胃腸外科	Does anastomotic leakage after rectal cancer resection worsen long-term oncologic outcome?	International journal of colorectal disease.2020.7;35(7):1243-1253	Original Article

70	Shingo Kanaji, Yoshinori Morita, Yuta Yamazaki, et al.	食道胃腸外科	Feasibility of laparoscopic endoscopic cooperative surgery for non-ampullary superficial duodenal neoplasms: Single-arm confirmatory trial	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society.2020.4(オンライン)	Original Article
71	Yu Kitamura, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Impact of Lymph Node Ratio on Survival Outcome in Esophageal Squamous Cell Carcinoma After Minimally Invasive Esophagectomy	Annals of surgical oncology.2021.1;28:4519-4528	Original Article
72	Eiji Fukuoka, Takeru Matsuda, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Laparoscopic vs open surgery for colorectal cancer patients with high American Society of Anesthesiologists classes	Asian journal of endoscopic surgery.2020.7;13(3):336-342	Original Article
73	Taro Ikeda, Michiru Nishita, Kyoka Hoshi, et al.	食道胃腸外科	Mesenchymal stem cell-derived CXCL16 promotes progression of gastric cancer cells by STAT3-mediated expression of Ror1	Cancer science.2020.4;111(4):1254-1265	Original Article
74	Naoki Shibuya, Yoshihiro Kakeji, Yohei Shimono	食道胃腸外科	MicroRNA-93 targets WASF3 and functions as a metastasis suppressor in breast cancer	Cancer science.2020.6;111(6):2093-2103	Original Article
75	Yoshihiro Kakeji, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Multimodality approaches to control esophageal cancer: development of chemoradiotherapy, chemotherapy, and immunotherapy	Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society.2021.1;18(1):25-32	Review
76	Sonoko Ishida, Masayuki Akita, Kohei Fujikura, et al.	食道胃腸外科	Neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm of the stomach: a clinicopathological and exome sequencing study	Human pathology.2021.1;110:1-10	Original Article

77	Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, Naoki Urakawa, et al.	食道胃腸外科	Novel "Modified Bascule Method" for Lymphadenectomy Along the Left Recurrent Laryngeal Nerve During Robot-Assisted Minimally Invasive Esophagectomy	Annals of surgical oncology.2021.3;28:4918-4927	Original Article
78	Hiroki Sakamoto, Yu-Ichiro Koma, Nobuhide Higashino, et al.	食道胃腸外科	PAI-1 derived from cancer-associated fibroblasts in esophageal squamous cell carcinoma promotes the invasion of cancer cells and the migration of macrophages	Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology.2021.3;101(3):353-368	Original Article
79	Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Postoperative recurrent laryngeal nerve palsy is associated with pneumonia in minimally invasive esophagectomy for esophageal cancer	Surgical endoscopy.2021.2;35(2):837-844	Original Article
80	Yuta Yamazaki, Shingo Kanaji, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Preoperative endoscopic tattooing using India ink to determine the resection margins during totally laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer	Surgery today.2021.1;51(1):111-117	Original Article
81	Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Reliable Dissection Technique During Transanal Total Mesorectal Excision Using a Lateral-First Approach	Diseases of the colon and rectum.2020.6;63(6):859-859	Original Article
82	Yasufumi Koterazawa, Michiyo Koyanagi-Aoi, Keiichiro Uehara, et al.	食道胃腸外科	Retinoic acid receptor $\gamma$ activation promotes differentiation of human induced pluripotent stem cells into esophageal epithelium	Journal of gastroenterology.2020.6;55(8):763-774	Original Article
83	Yo-Ichi Yamashita, Hiroyuki Yamamoto, Hiroaki Miyata, et al.	食道胃腸外科	Risk factors for bile leakage: Latest analysis of 10 102 hepatectomies for hepatocellular carcinoma from the Japanese national clinical database	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences.2020.9(オンライン)	Original Article

84	Y Sugita, T Nakamura, R Sawada, et al.	食道胃腸外科	Safety and feasibility of minimally invasive esophagectomy for elderly esophageal cancer patients	Diseases of the esophagus : official journal of the International Society for Diseases of the Esophagus.2021.3;34(3):doaa083	Original Article
85	Ryo Takai, Yohei Funakoshi, Hirota Suto, et al.	食道胃腸外科	Serum Soluble Interleukin-2 Receptor as a Potential Biomarker for Immune-related Adverse Events	Anticancer research.2021.2;41(2):1021-1026	Others
86	Yasufumi Koterazawa, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Severe weight loss after minimally invasive oesophagectomy is associated with poor survival in patients with oesophageal cancer at 5 years	BMC gastroenterology.2020.12;20(1):407-407	Original Article
87	Taro Ikeda, Shingo Kanaji, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Significance of prediction of the dorsal landmark using three-dimensional computed tomography during laparoscopic lymph node dissection along the proximal splenic artery in gastric cancer	SAGE open medicine.2020 Jun;30(8)(オンライン)	Original Article
88	Yuta Yamazaki, Shingo Kanaji, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Skeletal muscle loss after laparoscopic gastrectomy assessed by measuring the total psoas area	Surgery today.2020.7;50(7):693-702	Original Article
89	Daiki Okamoto, Takeru Matsuda, Akihiro Watanabe, et al.	食道胃腸外科	Successful Perioperative Management of a Penetrating Anastomotic Ulcer after Colorectal Cancer Surgery during a Course of Transfusion-Dependent Severe Aplastic Anemia	The Japanese Journal of Gastroenterological Surgery.2020.7;53(7):598-604	Case report
90	Yoshihiro Kakeji, Arata Takahashi, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2018	Annals of gastroenterological surgery.2020.5;4(3):250-274	Original Article

91	Kazumasa Horie, Taro Oshikiri, Yu Kitamura, et al.	食道胃腸外科	Thoracoscopic retrosternal gastric conduit resection in the supine position for gastric tube cancer	Asian journal of endoscopic surgery.2020.7;13(3):461-464	Original Article
92	Shingo Kanaji, Ryohei Watanabe, Pietro Mascagni, et al.	食道胃腸外科	Three-dimensional imaging improved the laparoscopic performance of inexperienced operators: a prospective trial	Surgical endoscopy.2020.11;34(11):5083-5091	Original Article
93	Yuta Yamazaki, Shingo Kanaji, Hitoshi Harada, et al.	食道胃腸外科	Three-dimensional laparoscopic vision improves forceps motion more in the depth direction than in the horizontal direction: An analysis of data from prospective randomized controlled trials	Asian journal of endoscopic surgery.2020.7;13(3):265-271	Original Article
94	Takuya Kudo, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Three-dimensional visualization system is one of the factors that improve short-term outcomes after minimally invasive esophagectomy	Langenbeck's archives of surgery.2020.11;406:631-639	Original Article
95	Yoshihiro Kakeji	食道胃腸外科	Under any circumstances, perform the best treatment for cancer	Annals of gastroenterological surgery.2021.1;5(1):5-6	Others
96	Machiko Nagata, Takeru Matsuda, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Usefulness of Omentoplasty to Reduce Perineal Wound Complications in Abdominoperineal Resection After Neoadjuvant Chemoradiotherapy	Anticancer research.2020.11;40(11):6539-6543	Others
97	Kazuya Matsuo, Atsushi Fujita, Masaaki Kohta, et al.	心臓血管外科	Successful Double-Catheter Coil Embolization of an Iatrogenic Subclavian Artery to Internal Jugular Vein Fistula After Minimally Invasive Cardiac Surgery	Annals of vascular surgery.2020.10;68:571.e15-571.e20	Case report

98	Kei Saito, Hideki Fujii, Keiji Kono, et al.	腎臓内科	Changes in blood pressure during treatment with the tyrosine kinase inhibitor lenvatinib	Clinical kidney journal.2021.1;14(1):325-331	Original Article
99	Kentaro Watanabe, Hideki Fujii, Keiji Kono, et al.	腎臓内科	Comparison of the effects of lanthanum carbonate and calcium carbonate on the progression of cardiac valvular calcification after initiation of hemodialysis	BMC Cardiovascular Disorders.2020.12;20(1):39-39	Original Article
100	Hideki Fujii, Keiji Kono, Kentaro Watanabe, et al.	腎臓内科	Evaluation of aortic calcification using a three-dimensional volume-rendering method in patients with end-stage kidney disease	Journal of Bone and Mineral Metabolism.2020.11;39:439-445	Original Article
101	Shinichi Nishi, Masayuki Yamada, Kazuhiko Tsuruya, et al.	腎臓内科	JR-131, a Biosimilar of Darbepoetin Alfa, for the Treatment of Hemodialysis Patients With Renal Anemia: A Randomized, Double-Blinded, Parallel-Group Phase 3 Study	Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy.2020.4;24(2):126-135	Original Article
102	Shinichi Nishi, Masayuki Yamada, Kazuhiko Tsuruya, et al.	腎臓内科	Long-Term Safety and Efficacy of JR-131, a Biosimilar of Darbepoetin Alfa, in Japanese Patients With Renal Anemia Undergoing Hemodialysis: Phase 3 Prospective Study	Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy.2020.4;24(2):126-135	Original Article
103	Keiji Kono, Hideki Fujii, Kentaro Watanabe, et al.	腎臓内科	Relationship between parathyroid hormone and renin-angiotensin-aldosterone system in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism	Journal of Bone and Mineral Metabolism.2020.9;39:230-236	Original Article
104	Shinya Hayashi, Shingo Hashimoto, Koji Takayama, et al.	整形外科	Evaluation of the accuracy of acetabular cup orientation using the accelerometer-based portable navigation system	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association.2020.7;25(4):612-617	Original Article

105	Satoshi Okazaki, Shusuke Numata, Ikko Otsuka, et al.	精神科神経科	Decelerated epigenetic aging associated with mood stabilizers in the blood of patients with bipolar disorder	Translational psychiatry.2020.5;10(1):129-129	Original Article
106	Kenichi Matsuyama, Yasuji Yamamoto, Ichiro Sora	精神科神経科	Effect of Feru-guard 100M on amyloid-beta deposition in individuals with mild cognitive impairment	Psychogeriatrics : the official journal of the Japanese Psychogeriatric Society.2020.9;20(5):726-736	Original Article
107	Shinichi Miura, Yoichi Uozumi, Masaaki Taniguchi, et al.	脳神経外科	[Sellar and Parasellar Inflammatory Lesions with Impaired Visual Function:Clinical Features and Endoscopic Surgical Outcomes of Six Cases]	No shinkei geka. Neurological surgery.2020.10;48(10):915-920	Case report
108	Yoichi Uozumi, Masaaki Taniguchi, Tomoaki Nakai, et al.	脳神経外科	Comparative Evaluation of 3-Dimensional High Definition and 2-Dimensional 4-K Ultra-High Definition Endoscopy Systems in Endonasal Skull Base Surgery	Operative neurosurgery (Hagerstown, Md.).2020.9;19(3):281-287	Original Article
109	Hidehito Kimura, Masaaki Taniguchi, Hiroataka Shinomiya, et al.	脳神経外科	En Bloc Subtotal Temporal Bone Resection in a Case of Advanced Ear Cancer: 2-Dimensional Operative Video	Operative neurosurgery (Hagerstown, Md.).2020.10;19(4):E402-E403	Case report
110	Tomoaki Harada, Atsushi Fujita, Junichi Sakata, et al.	脳神経外科	Endovascular Internal Trapping by Low-Concentration N-butyl-2-Cyanoacrylate for a Ruptured Giant Common Carotid Artery Pseudoaneurysm	Vascular and Endovascular Surgery.2021.1;55(1):81-85	Case report
111	Atsushi Fujita, Masaaki Kohta, Takashi Sasayama, et al.	脳神経外科	Impact of transvenous embolization via superior ophthalmic vein on reducing the total number of coils used for patients with cavernous sinus dural arteriovenous fistula	Neurosurgical review.2021.2;44(1):401-409	Original Article

112	Masato Komatsu, Akihiko Yoshida, Kazuhiro Tanaka, et al.	脳神経外科	Intracranial myxoid mesenchymal tumor with EWSR1-CREB1 gene fusion: a case report and literature review	Brain tumor pathology.2020.4;37(2):76-80	Case report
113	Yuichi Fujita, Masaaki Kohta, Takashi Sasayama, et al.	脳神経外科	Intraoperative 3-T Magnetic Resonance Spectroscopy for Detection of Proliferative Remnants of Glioma	World neurosurgery.2020.5;137:149-157	Original Article
114	Nobuyuki Akutsu, Mai Azumi, Junji Koyama, et al.	脳神経外科	Management and problems of prolonged survival with hydranencephaly in the modern treatment era	Child's nervous system : ChNS : official journal of the International Society for Pediatric Neurosurgery.2020.6;36(6):1239-1243	Original Article
115	Masaaki Kohta, Atsushi Fujita, Kazuya Matsuo, et al.	脳神経外科	Microcatheter injection reduces the amount of contrast medium during middle cerebral artery aneurysm embolization in a patient with chronic kidney disease	Radiology Case Reports.2020.5;15(5):542-544	Case report
116	Masahiro Maeyama, Takashi Sasayama, Kazuhiro Tanaka, et al.	脳神経外科	Multi-marker algorithms based on CXCL13, IL-10, sIL-2 receptor, and $\beta$ 2-microglobulin in cerebrospinal fluid to diagnose CNS lymphoma	Cancer medicine.2020.6;9(12):4114-4125	Original Article
117	Takashi Mizowaki, Atsushi Fujita, Satoshi Inoue, et al.	脳神経外科	Outcome and effect of endovascular treatment in stroke associated with acute extracranial internal carotid artery occlusion: Single-center experience in Japan	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases.2020.7;29(7):104824	Original Article
118	Yoichi Uozumi, Masaaki Taniguchi, Toru Umehara, et al.	脳神経外科	Submucosal Inferior Turbinectomy to Widen the Surgical Corridor for Endoscopic Endonasal Skull Base Surgery	Neurologia medico-chirurgica.2020.6;60(6):299-306	Case report

119	Yuichi Fujita, Hiroaki Nagashima, Kazuhiro Tanaka, et al.	脳神経外科	The Histopathologic and Radiologic Features of T2-FLAIR Mismatch Sign in IDH-Mutant 1p/19q Non-codeleted Astrocytomas	World neurosurgery. 2021.2;149:e253-e260	Original Article
120	Kazuya Matsuo, Atsushi Fujita, Masaaki Kohta, et al.	脳神経外科	Transarterial Onyx embolization with targeted balloon-assisted sinus protection for treatment of dural arteriovenous fistula of the lateral tentorial sinus	Radiology case reports.2020.4;15(4):405-410	Case report
121	Tomoaki Nakai, Atsushi Fujita, Akitsugu Morishita, et al.	脳神経外科	Transvenous embolization through the ipsilateral deep facial vein: A novel approach route for treatment of a cavernous sinus dural arteriovenous fistula	Radiology Case Reports.2020.6;15(6):675-679	Case report
122	Masaaki Kohta, Atsushi Fujita, Shunsuke Yamashita, et al.	脳神経外科	Ultrasonographically-guided stent placement at the vertebral artery origin without contrast medium: A case report	Journal of clinical ultrasound : JCU.2020.7;48(6):362-366	Case report
123	Eiji Nakano, Akira Takahashi, Kenjiro Namikawa, et al.	皮膚科	Correlation between cutaneous adverse events and prognosis in patients with melanoma treated with nivolumab: A single institutional retrospective study	The Journal of dermatology.2020.6;47(6):622-628	Original Article
124	Hiroki Kawaguchi, Yusuke Demizu, Naritoshi Mukumoto, et al.	放射線腫瘍科	Efficacy of Spacers in Radiation Therapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer: A Planning Study	Anticancer research.2021.1;41(1):503-508	Original Article
125	Tianyuan Wang, Sachiko Inubushi, Naoko Ikeo, et al.	放射線腫瘍科	Novel artifact-robust and highly visible zinc solid fiducial marker for kilovoltage X-ray image-guided radiation therapy	Medical physics.2020.10;47(10):4703-4710	Original Article

126	Ryuichi Yada, Kazusuke Maenaka, Shuji Miyamoto, et al.	放射線腫瘍科	Real-time in vivo dosimetry system based on an optical fiber- coupled microsized photostimulable phosphor for stereotactic body radiation therapy	Medical Physics.2020.10;47(10):5235- 5249	Original Article
127	Hikaru Kubota, Daisuke Miyawaki, Naritoshi Mukumoto, et al.	放射線腫瘍科	Risk factors for osteoradionecrosis of the jaw in patients with head and neck squamous cell carcinoma	Radiation oncology (London, England).2021.1;16(1):1-1	Original Article

計 2 件

総計 127 件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	蔵満 薫, 福本 巧, 江川 裕人	肝胆膵外科	【移植-ドナー管理と移植 の手術手技】移植医療の ための体制整備 現状と残 された課題	Intensivist.2020.7;12(3):477- 483	Original Article
2	小松 昇平, 宗 慎 一, 権 英寿, 蔵満 薫, 田中 基文, 木 戸 正浩, 福本 巧	肝胆膵外科	【肝癌治療の最前線】脈管 侵襲陽性進行肝細胞癌に 対する治療	外科.2020.11;82(12):1228- 1233	Others
3	蔵満 薫, 福本 巧	肝胆膵外科	【肝内胆汁うっ滞】肝移 植後胆管合併症	別冊日本臨牀 領域別症候群 シリーズ 肝・胆道系症候群(第 3版).2021.1;13(1):378-381	Original Article
4	田中 基文, 小松 昇 平, 木戸 正浩, 他	肝胆膵外科	【特集 肝胆膵外科におけ る再切除と再手術—最新 の治療戦略】粒子線治療 後再発に対するサルベー ジ肝切除	手術.2021.3;75(3):273-279	Original Article
5	蔵満 薫, 福本 巧, 江川 裕人	肝胆膵外科	【変貌する肝移植-適応拡 大・ドナー選択・治療戦略 の最先端を知る】本邦の 脳死肝移植の歩みと最新 事情	臨床外科.2020.9;75(9):1024- 1028	Original Article
6	味木 徹夫, 津川 大 介, 柳本 泰明, 他	肝胆膵外科	肝門部領域胆管癌に対す る右側・左側肝切除の選 択	胆道.2020.5;34(2):139-144	Original Article

計 6 件

7	石田 潤, 外山 博 近, 寺井 祥雄, 他	肝胆膵外科	膵多重奇形を合併した膵管内乳頭粘液腫瘍に対し膵頭十二指腸切除を行った1例	日本消化器外科学会雑誌.2020.8;53(8):650-656	Original Article
8	植田梨沙, 丹田雅明, 伊藤雄大, 他	薬剤部	経口抗がん薬治療における情報共有ツールおよびチーム基盤型学習を用いた病診薬連携の有用性の評価	2020 12; 46(12):681-691	Original Article
9	岡本 大輝, 松田 武, 渡部 晃大, 他	食道胃腸外科	輸血依存の重症再生不良性貧血経過中に大腸癌術後の穿通性吻合部潰瘍を発生し周術期管理が奏効した1例	日本消化器外科学会雑誌.2020.7;53(7):598-604	Original Article
10	掛地 吉弘, 長谷川 寛, 金治 新悟	食道胃腸外科	【外科臨床に役立つ統計学】National Clinical Databaseから何が引き出せるか	外科.2020.7;82(8):830-835	Others
11	掛地 吉弘	食道胃腸外科	エキスパートの治療法 症例から考える 4型胃癌の治療方針	胃がん perspective.2020.7;11(2):124-127	Case report
12	掛地 吉弘, 長谷川 寛, 金治 新悟, 他	食道胃腸外科	消化器外科領域における National Clinical Database の活用	泌尿器外科.2021.1;34(1):47-53	Original Article
13	金治 新悟	食道胃腸外科	表在型非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術	週刊日本医事新報.2020.5;5014(5月5週):48	Original Article

計 7 件

14	鈴木 知志, 金治 新悟, 山本 将士, 他	食道胃腸外科	高齢者胃癌の外科治療	癌の臨床.2020.4;64(4):257-264	Others
15	中村 哲	食道胃腸外科	がん手術治療の進歩とがんロコモ — 消化器癌を中心に—	Bone Joint Nerve.2020.7;10(3):363-369	Original Article
16	山崎 悠太, 裏川 直樹, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【「覚えなおし」と「レベルアップ」でらくらくスタート! ケアに絶対出てくる 消化器解剖&病態生理のちしき】胃の解剖&病態生理	消化器ナーシング.2020.4;25(4):305-311	Others
17	黒田 良祐, 新倉 隆宏, 大江 啓介, 他	整形外科	【骨折に対する積極的保存療法 基礎編】難治性骨折に対する再生医療 自家末梢血CD34陽性細胞移植	臨床整形外科.2021.3;56(3):241-245	Original Article
18	新倉 隆宏, 松本 知之, 美船 泰, 他	整形外科	患者まで届いている再生医療 難治性骨折患者への自家末梢血CD34陽性細胞移植	再生医療.2021.2;20(1):50-55	Original Article
19	新倉隆宏, 岩倉崇, 李相亮, 他	整形外科	炭酸ガス経皮吸収は安全に骨折患者の患肢血流を増加できる—臨床試験の報告—	日本整形外科学会雑誌.2020;94(3):S1040-S1040	Original Article

計 6 件

総計 19 件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○ 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 1 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 7 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning 又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、内科専門医を取得することを一つの目標として、内科医としての幅広い臨床能力を育成するためのものである。

初期臨床研修を修了した後に、プログラム内の病院群の中で3年間専攻医として研修を修了した時点で、内科専門医受験資格を獲得することを目標とする。

・神戸大学放射線科専門研修プログラム

本プログラムは神戸大学医学部附属病院放射線診断・IVR科と放射線腫瘍科を基幹施設とし、11ヶ所の総合修練機関、3ヶ所の特殊修練機関、13の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群から構成される。日本専門医機構が承認した専門研修プログラム整備基準に従い放射線科領域における幅広い知識と技能、高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナルリズムを備えた放射線科専門医をめざして専攻医を教育する。

・神戸大学小児科専門研修プログラム

本プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要かつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムである。

・神戸大学皮膚科研修プログラム

本プログラムは研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

・神戸大学病院 連携施設 精神科専門医研修プログラム

統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患の診断学、治療学について学び、看護師、作業療法士、精神保健福祉士などと多職種連携を行える精神科医を育てていく。プログラムの連携施設には、9施設の総合病院精神科神経科、19施設の公立・私立単科精神科病院が含まれ、専攻医はこれらの医療機関をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。

・神戸大学外科専門研修プログラム

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の6分野が連携してプログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修の実施が可能である。連携施設は兵庫県、大阪府を中心に49施設あり、志望する診療科や個々の希望に応じたフレキシブルな研修体制を構築している。

・神戸大学整形外科専門研修プログラム

「整形外科学領域の学識ならびに技術向上をはかり、優れた整形外科専門医を養成する」ことを目的とし、神戸大学附属病院を基幹施設とし、42連携施設で構成されている。

・神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積する。大学病院では最新鋭の3テスラ術中MRI装置、ハイブリッド手術室、3D/4K内視鏡システム、フローダイバーターなどのデバイスを用いた血管内治療を用いた先進的な医療に参加できる。連携施設は兵庫

県内にほぼ集約され、基幹施設と連携施設での年間手術総数は4800件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしている。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集学的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることができることは、当プログラムの大きな特徴である。

・神戸大学眼科専門研修プログラム

神戸大学眼科ならびに関係病院群での研修を通じて、これまで受け継がれてきた技術や知識を生かしながら、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成、患者にとって最善かつ先端の医療を希求し生涯にわたって研鑽をつみ眼科医療に貢献することを目的とする。初期2年の研修において1年間は基幹施設である神戸大学、他の3年間は研修状況に応じて大学ないし関係病院での専門医研修を行う。

・神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格を涵養し、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、頭頸部の病態や疾患に対する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的とする。

・神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム

神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする28の連携施設から構成されており、基本的には4年間のうち1年間、基幹施設で研修を行う必要がある。本研修施設群では、一般泌尿器科に加え、小児泌尿器科、生殖医療、腎移植などの専門的な連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院も16施設に及んでいる。以上のプログラムの特性により量的にも質的にも多彩な泌尿器科診療を研修することができる。

・神戸大学産科婦人科研修プログラム

本プログラムでは、医師として、また産婦人科医師としての基本的診療能力や幅広い知識を確実に習得し、社会に貢献できる産婦人科医師を育成することを目標としている。周産期、婦人科腫瘍、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となるよう配慮している。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する環境も整えている。

・神戸大学形成外科研修プログラム

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野である。当科専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としている。

・神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

プログラムに所属する全ての専攻医が、研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設、および連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。

・神戸大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム

基幹病院の大学では、ER、集中治療、外傷整形外科、ドクターヘリ、災害医療など救急医に必要な症例をまんべんなく経験させる。特に、総合内科と組んで、救急医療に限らず総合診療も経験させる。関連病院ではそれぞれの特徴を生かして、体幹外傷外科、ドクターカーによる病院前診療などを含めた幅広い救急医療を経験させる。

・神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム

大学病院を含む多数の連携施設と結ぶ総合的病理医育成プログラム。各専門分野にわたる豊富な指導教官 general + subspecialty ～バランスのとれた優秀な病理医を育成、個性に応じたオーダーメイドのキャリアパスを作成、各自の興味に応じた高度専門病理学の修得、分子病理学的研究にも対応。

・神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム

神戸大学リハビリテーション科研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっている。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えている。

・神戸大学臨床検査専門研修プログラム

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものである。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	122人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平田 健一	内科	教授	37年	内科チェアマン
村上 卓道	放射線科	特命教授	35年	
野津 寛大	小児科	教授	24年	
久保 亮治	皮膚科	教授	27年	
曾良 一郎	精神科神経科	教授	39年	
福本 巧	外科	教授	34年	外科チェアマン
黒田 良祐	整形外科	教授	31年	
篠山 隆司	脳神経外科	教授	27年	
中村 誠	眼科	教授	32年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	35年	
藤澤 正人	泌尿器科	教授	37年	
寺井 義人	産科婦人科	特命教授	29年	
寺師 浩人	形成外科	教授	35年	
溝渕 知司	麻酔科	教授	36年	
小谷 穰治	救命救急科	教授	34年	
伊藤 智雄	病理診断科	教授	29年	
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	25年	
三枝 淳	臨床検査部門	部長	25年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容：植込み型補助人工心臓 ハートメイトⅢ
- ・研修の期間・実施回数：2020年6月23日～2021年3月3日 計11回
- ・研修の参加人数：139名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

○ME機器に関する研修

- ・研修の主な内容：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、補助循環装置、その他ME機器の使用方法に関する研修
- ・研修の期間・実施回数：2020年4月1日～2021年3月31日 99回
- ・研修の参加人数：3774名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 柘植 智司 管理課長 輪野 透 学務課長 浦田 勇二 研究支援課長 長井 勝典 医事課長 今井 淳 医療支援課長 橋本 欣也

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療支援課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録センター	
		看護記録	診療録センター	
		検査所見記録	診療録センター	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	診療録センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	学務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	カルテ室	
			入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療支援課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療支援課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療支援課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療支援課		
		病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌各診療科日誌は当該担当部署において、保管している。診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。		
		パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理		
		パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第一号	医薬品安全管理責任者の配置状況	
	第二号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
	第四号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第五号	医療機器安全管理責任者の配置状況	
	第六号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
第七号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
第八号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	医療支援課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌	
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子      総務課長 柘植 智司 管理課長 輪野 透      学務課長 浦田 勇二 研究支援課長 長井 勝典      医事課長 今井 淳 医療支援課長 橋本 欣也	
閲覧の求めに応じる場所		
閲覧の手続の概要	総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2. 医療安全管理委員会その他の病院の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療安全教育のための職員研修</li> <li>4. 医療安全の確保を目的とした医療事故報告の分析と改善策の立案、実施</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応</li> <li>6. 患者等からの相談への対応</li> <li>7. その他医療安全推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有・無）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析</li> <li>2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知</li> <li>3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し</li> <li>4. インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告</li> <li>5. 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導</li> <li>6. その他医療安全管理に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全に関する職員必修講習（年2回）</li> <li>・ 医療安全に関する講習会</li> <li>・ 新規採用職員合同研修</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療スタッフポケットマニュアルの配付</li> <li>2. 薬品情報検索システム</li> <li>3. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム</li> <li>4. 是正処置実施計画書・報告書の作成</li> <li>5. 院内巡回の定期実施</li> <li>6. 医療の質・安全マシヤー連絡会議の定期実施</li> <li>7. 死亡事例の全件報告</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>・ 院内感染対策のための委員会・組織</li> <li>・ 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針</li> <li>・ 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド 抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・ マニュアルの編集・院内環境の整備）</li> <li>・ 感染制御の地域連携</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド報告、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会報告、職業感染予防対策（新型コロナウイルス対策、結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修の計画・実施報告</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義（e-ラーニング）</li> <li>・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識、対策、検査、注意事項などについての動画作成（3種類）。個人防護具着脱講習、N95マスク装着指導（フィットテスト含む）</li> <li>・ 職種別や部門別（医師、看護師、診療技術部門等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について資料配布、講義（e-ラーニング）、トレーニング</li> <li>・ 外部委託業者への講習会を職種別に講義（DVD配布）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備（(有)・無） <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制。</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策実施状況を確認するために、オンタイムおよび随時（1-2回/週）に院内ラウンドを実施し、必要時指導。</li> <li>・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法をメール審議し、随時介入指導。</li> <li>・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。</li> <li>・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。</li> <li>・ 職員に対してB型肝炎、4種ウイルス（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）のワクチン歴や抗体価の調査およびワクチンの推奨を行い、データ管理を実施。</li> <li>・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。</li> <li>・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントの実施。</li> <li>・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習（オンライン含む）を実施。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 20 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 例年は、新規採用職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習を実施しているが、今回は新型コロナ感染拡大防止のため講習の代替としてスライド資料の配布を行った。資料に含めた内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p> <p>(2) 全職員を対象とした講習会を7月に実施したが、新型コロナ感染拡大防止のためe-learning形式であった。テーマは「第三者評価で求められる薬剤管理について」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「薬局会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(4) 例年通り、新人看護師を対象とした「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「レンビマカプセルについて」「簡易懸濁法について」「医薬品の禁忌について（病名・併用薬など）」等をテーマとした短時間講習を実施した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも毎年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善依頼を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 未承認新規医薬品は3事例について承認した。具体的には、①消化器内科「クリスタルバイオレットを用いた消化器色素内視鏡検査」、②小児科「高リスク神経芽腫に対するイソトレチノインの内服」、③放射線診断IVR科「小腸造影（有管法）におけるメチルセルロース液使用」である。</p> <p>適応外使用については7事例承認した。具体的には、①感染症内科「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するファビピラビル治療」、②眼科「急性リンパ性白血病の眼内浸潤に対するメトトレキサート硝子体注射」、③感染症内科「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するヒドロキシクロキシン治療」、④眼科「網膜血管腫および脈絡膜血管腫に対するベバシズマブ硝子体注射」、⑤腫瘍血液内科「ランゲルハンス細胞組織球症に対するSpecial C regimen治療について」、⑥感染症内科「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するトシリスマブ治療」、⑦呼吸器内科「バソプレシン点鼻とステロイド（デキサメタゾン内服および注射）の併用（禁忌）」の以上7事例である。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。</p> <p>(2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は必要に応じて院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、随時、医療の質・安全管理部、感染制御部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年144回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>2020年度は全体研修会2回、安全使用研修68回、新規導入等研修40回、その他放射線部研修34回</p> <p>(1) 職員必修講習</p> <p>    a. 除細動器・AEDについて</p> <p>(2) 医療機器安全に関する必修講習（前・後期）</p> <p>    a. 人工呼吸器について</p> <p>    b. 血液浄化装置について</p> <p>    c. 人工心肺装置・補助循環装置について</p> <p>    d. 閉鎖式保育器について</p> <p>(3) その他の特定保守管理装置の講習</p> <p>    a. 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について</p> <p>(4) 新入職員等のための研修</p> <p>    a. 輸液・シリンジポンプ</p> <p>    b. 人工呼吸器</p> <p>    c. 血液浄化装置</p> <p>(5) 新規導入機器・機器配置変更等のための研修会</p> <p>    a. 人工呼吸器</p> <p>    b. 補助循環装置</p> <p>    c. 血液浄化装置</p> <p>    d. その他</p> <p>(6) 医療機器安全使用・適正使用に関する研修等</p> <p>    a. 人工呼吸器</p> <p>    b. 血液浄化装置</p> <p>    c. その他</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置・補助循環装置（IABP、経皮的補助循環装置、体外設置型補助人工心臓装置）、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、CTエックス線装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、磁気共鳴画像診断装置等の保守点検を実施</p> <p>(2) 補助循環装置、人工呼吸器、生体情報モニター、除細動装置等の日常点検を実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施</p> <p>(2) 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施</p> <p>(3) 医療機器の安全使用のための情報の収集（不具合情報、安全情報、健康被害等情報）</p> <p>    a. 収集した情報は医療機器安全管理委員会に報告している。</p> <p>    b. 医療機器安全管理委員会から関連部署へ通知し周知を図っている。</p>	

c. 医療安全管理委員会へ不具合情報ならびにその対応について報告している。

- (4) 未承認等の医療機器を用いた医療の提供
- (5) 医療機器の安全確保を目的とした改善方策の実施
- (6) 医療機器の添付文書及び取扱説明書の管理

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（リスクマネジメント担当）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、令和2年度は年2回発行した「くすのきスクエア」（医療安全、機器、感染、薬剤情報紙）により周知徹底を図った。</p> <p>また、薬品情報室ニュース（採用薬・副作用・安全性情報）を適宜発信し周知している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理委員会にて、「医薬品に関する未承認、禁忌、適応外使用に関する相談フォーム」を作成し、適応外使用のうち高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等実施審査委員会で審査を要する範囲を定めた。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。医師による次の7項目のカルテ記載が必要としている（1. 対象者（患者またはその代諾者） 2. 説明場所 3. 説明日時 4. 同席者（医療者） 5. 説明内容 6. 説明時の患者またはその代諾者の反応等 7. 患者またはその代諾者に同意を得たこと）</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録管理責任者は、定期的に診療録等の記載内容の確認を行い、不十分な場合は、記載方法や内容の研修・指導等を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（4）名  うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（2）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>医療安全に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理委員会の方針に基づき、同委員会と連携し、院内の医療安全に努める。</li> <li>(2) インシデント事例収集、分析及び再発防止策を立案する。</li> <li>(3) インシデント・アクシデント審議会・事例検証会等を開催し、事例の検証、調査及び対策の立案を行う。</li> <li>(4) 医療安全活動の企画、立案を行う。</li> <li>(5) 院内外で収集した医療安全情報の院内周知や医療安全に関する職員教育を行う。</li> <li>(6) 医療者相談・医療紛争及び医療訴訟事例等の検証を行い、対応する。</li> <li>(7) 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する検討を行う。</li> <li>(8) 医療安全に配慮した各種マニュアルの作成、改訂を行う。</li> <li>(9) その他、医療安全に関する業務を行う。</li> </ol> <p>医療の質に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療情報から医療の質の評価に役立つ指標を情報分析推進室と協働で分析、評価する。</li> <li>(2) 医療の質において評価が低く、問題となった点の分析、改善策の立案を行う。</li> <li>(3) 臨床倫理に関した事例等の対応支援を行う。</li> <li>(4) 総合的質管理委員会、業務標準化委員会と連携し、医療の質向上に努める。</li> <li>(5) 部門横断的な質改善活動等、院内の医療の質改善活動の支援を行う。</li> <li>(6) その他、医療の質改善に関する業務を行う。</li> </ol> <p>モニタリングの具体例</p> <p>院内死亡事例、院内急変事例、DVTの発症、手術・麻酔に関連した予期せぬ出来事 など</p>	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（2件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）
- ・ 活動の主な内容：
  - (1) 病院長の命を受け、新規医療技術等の責任者として業務を掌理する
  - (2) 新規医療技術等の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
  - (3) 決定した内容及び内規等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有 無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（8件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）
- ・ 活動の主な内容：
  - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する
  - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
  - (3) 決定した内容及び内規等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有 無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 246 件</li> <li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 94 件</li> <li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告</li> <li>(2) (1)の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導</li> </ul> </li> </ul>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：和歌山県立医科大学附属病院）・無）</li> <li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：大阪市立大学医学部附属病院）・無）</li> <li>・技術的助言の実施状況 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度特定機能病院間相互のピアレビューは紙面調査のみとなった</li> </ul>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況 患者支援センターに入退院・総合相談部門を置き、患者相談業務を行っている。</li> </ul>

<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施状況 7月及び2月に2回実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(7月) ・特定機能病院に求められる医療安全管理体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス時代の誰にでもできる感染対策の基本</li> <li>・抗菌薬適正使用について</li> <li>・第三者評価で求められる薬剤管理について</li> </ul> </li> <li>(2月) ・医療安全管理マニュアル改定の重要ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス流行下の感染対策の基本</li> <li>・薬剤耐性菌の選択を抑制する抗菌薬の適正使用</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
--

・医療機器の安全使用について

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構が実施する令和2年度特定機能病院管理者研修を次のとおり受講した。

管理者 (令和3年1月17日)、医療安全管理責任者 (令和3年2月4日)

医薬品安全管理責任者 (令和2年10月15日)

医療機器安全管理責任者 (令和3年12月15日)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構の病院機能評価「一般病院3」<3rdG:Ver. 2.0>を令和3年10月27日(水)~29日(金)に受審予定

(2021年度病院機能評価を受審予定であったが、コロナ禍のため今年度10月の受審に延期)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

上記評価結果が分かり次第、ホームページで公表する。

・評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容                      病院長は、人格が高潔で、学識に優れ、大学附属病院の運営に関し識見を有し、かつ以下の資質・能力を備えていることが求められる。                      (1) 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。                      (2) 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。                      (3) 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。                      (4) 神戸大学医学部附属病院の理念・基本方針を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ 公表の方法                      神戸大学ホームページに掲載</li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
水谷 文俊	神戸大学理事(総括 ・総務・企画担当)	○	理事のうち学長が指名した者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
杉村 和朗	神戸大学理事(病院 ・学生・危機管理)		理事のうち学長が指名した者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

	担当)			
藤澤 正人	神戸大学大学院医学研究科長		医学研究科長（役職指定）	有・無
安田 尚史	神戸大学大学院保健学研究科長		保健学研究科長（役職指定）	有・無
飯島 一誠	神戸大学医学部附属病院小児科診療科長・教授		医学部附属病院において診療科長を兼務する神戸大学の教員のうちから、学長が指名した者	有・無
置塩 隆	神戸市医師会 会長		学長が委嘱する学外の有識者 一般社団法人神戸市医師会 会長として、医学・医療全般について高い識見を有し、神戸市を含めた地域医療における医療政策について助言をいただくため、選定する	有・無
上田 裕一	地方独立行政法人奈良県立病院機構 理事長		学長が委嘱する学外の有識者 地方独立行政法人奈良県立病院機構 理事長として、病院運営・管理はもとより、医学・医療全般について高い識見を有し、兵庫県外からの見地に立った助言をいただくため、選定する	有・無
川嶋 成乃亮	大阪府済生会中津病院 院長		学長が委嘱する学外の有識者 大阪府済生会中津病院 院長として、病院運営・管理はもとより、医学・医療全般について高い識見を有し、兵庫県外からの見地に立った助言をいただくため、選定する	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 主要人事（病院管理部門の長，診療支援・企画部門の長，診療科長，中央診療部門の長，専門診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項</li> <li>(2) 病院組織の改編に関する事項</li> <li>(3) 人事制度，定員の変更に関する事項</li> <li>(4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項</li> <li>(5) その他答申を行うべき事項</li> </ul> </li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ及び業務連絡会議にて報告</li> </ul> </li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）</li> <li>・公表の方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ</li> </ul> </li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有(無)）※規則上は、意見を聴取できることとなっているが、令和2年度は聴取していない。</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
眞庭 謙昌	○	大学教員（医師）	病院長
味木 徹夫		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
佐々木 良平		大学教員（医師）	副病院長
児玉 裕三		大学教員（医師）	副病院長
溝渕 知司		大学教員（医師）	副病院長
黒田 良祐		大学教員（医師）	副病院長
藤原 由佳		看護師	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐
伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
掛地 吉弘		大学教員（医師）	病院長補佐
松本 理器		大学教員（医師）	病院長補佐
寺師 浩人		大学教員（医師）	病院長補佐
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	病院長補佐
小林 和幸		大学教員（医師）	病院管理部門の長
宮良 高維		大学教員（医師）	病院管理部門の長
眞田 昌爾		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長

高橋 路子		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
青井 貴之		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
松岡 広		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
坂口 一彦		大学教員（医師）	診療科長
平田 健一		大学教員（医師）	診療科長
西 慎一		大学教員（医師）	診療科長
西村 善博		大学教員（医師）	診療科長
三枝 淳		大学教員（医師）	診療科長
小川 涉		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
野津 寛大		大学教員（医師）	診療科長
久保 亮治		大学教員（医師）	診療科長
曾良 一郎		大学教員（医師）	診療科長
木澤 義之		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
岡田 健次		大学教員（医師）	診療科長
尾藤 祐子		大学教員（医師）	診療科長
篠山 隆司		大学教員（医師）	診療科長
中村 誠		大学教員（医師）	診療科長
丹生 健一		大学教員（医師）	診療科長
中野 雄造		大学教員（医師）	診療科長
寺井 義人		大学教員（医師）	診療科長
原岡 剛一		大学教員（医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
矢野 嘉彦		大学教員（医師）	中央診療部門の長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	専門診療施設等
豊永 高史		大学教員（医師）	専門診療施設等
杉本 幸司		大学教員（医師）	専門診療施設等
福沢 公二		大学教員（医師）	専門診療施設等
松本 賢亮		大学教員（医師）	専門診療施設等
矢野 育子		薬剤師	薬剤部長
丸山 孝樹		理学療法士	医療技術部長
福井 浩司		事務職員	事務部長
小林 大介		大学教員	情報分析推進室副室長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
ホームページ
- ・ 規程の主な内容  
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。  
職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。  
主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。  
以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 神戸大学医学部附属病院副病院長設置要項を定めており、副病院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
  - ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  - ・ 人事について  
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。  
また、主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
  - ・ 研修について  
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者）に受講させ、その育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無				
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う</p> <p>(1) 医療安全管理に係る体制</p> <p>(2) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況</p> <p>(3) 医療の質・安全管理部の業務の状況</p> <p>(4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況</p> <p>(5) その他医療安全管理に関して必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療部長/内科主任科 部長/医療安全管理 部長/医療安全推進 室長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・(無)	1
丸山 英二	京都府立医科大学 大学院医学研究科 客員教授 (非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・(無)	1
武田 高	関西住宅品質保証 株式会社監査役 (非常勤)		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立大学法人神戸大学内部監査規程（平成16年4月1日制定）に定める内部監査その他の本学において実施する各種監査により整備されている。  
具体的には、令和2年5月20日に実施した内部監査で、医学部附属病院の事務体制、事務処理の状況が規則等に準拠して適正に運用されていることを確認した。  
なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。  
学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理者に命ずる。  
管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。
  
- ・ 専門部署の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（  有 ・ 無 ）
  
- ・ 公表の方法  
ホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年1回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年1回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 ホームページ</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
木戸 良明	神戸大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
眞庭 謙昌	神戸大学医学部附属病院		<input checked="" type="radio"/> 有・無
上田 裕一	奈良県立病院機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
木下 芳一	製鉄記念広畑病院/姫路循環器病センター		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学研究所		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 神戸大学医学部附属病院ホームページや、医療者全員に配布するポケットマニュアルに掲載している。</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：病院ホームページに掲載</p> <p>内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和 支持治療科等）、I C Uにて複数の診療科が連携し対応。</p>	